継続的な改善活動のために！

2011

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果
［報告書（抜粋）］

学校法人　金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長　石 川 憲 一

周知のように、’70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50％が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来46年の歴史を着実に刻み、‘08年4月より工学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、情報学部から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行いたしました。このような展開の中にあって、’95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として’02年度には機械系並びに材料系、’03年度には環境系並びに建築系、’05年度には電気系、’08年度には化学系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて’04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、’03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、’96年並びに’02～’10年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である（有）アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いであります。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目　次

本報告書（抜粋）のページ番号は、報告書（全文）の目次に対応しているため、連動しておりません。

＜1＞	本調査の全体像	1
＜2＞	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
＜3＞	在学中の目的・目標意識	11
＜4＞	大学に対する満足度	17
＜5＞	授業・学習支援の評価	35
＜6＞	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	63
＜7＞	福利厚生の評価	71
＜8＞	KIT-IDEALSに関して	81
＜9＞	卒業時の能力	91
＜10＞	卒業・修了生アンケートの分析結果	97
＜11＞	新入生アンケートの分析結果	103
＜12＞	教職員アンケートの分析結果	119
＜13＞	全体のまとめ	131
＜14＞	フリーアンサー集	151
＜15＞	調査票見本	281

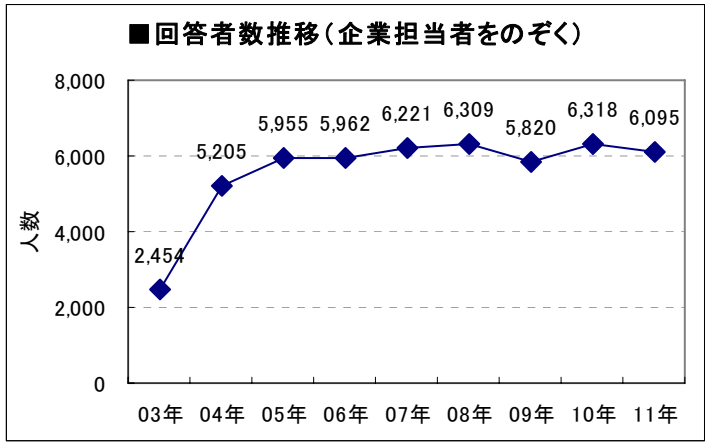
＜1-1＞調査の目的と概略

■調査目的

- 本調査は金沢工業大学（以下、KIT）を取り囲む関係者の中から、「在学生（新入生～卒業・修了直前）」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか？」「各々の見方にはどのような違いがあるのか？」「以前とどのように変わっているのか？」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が9回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析しているが、今回は設問内容の大幅な見直しを行っているため、単年度の評価のものが多い。

■調査方法

調査時期	・2011年2月～4月に実施。 ・2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初（4月）から年度末（2月）に変更している。
調査方法	・「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・全て『無記名式』とした。
回収数	・今回の全回収数は6,095サンプルであった。 ・属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人　金沢工業大学
集計分析	（有）アイ・ポイント



■年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	新学科体制
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	（4学部、14学科）
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	旧学科体制
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	（3学部、15学科）
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	660	実施せず	実施せず	実施予定	
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	

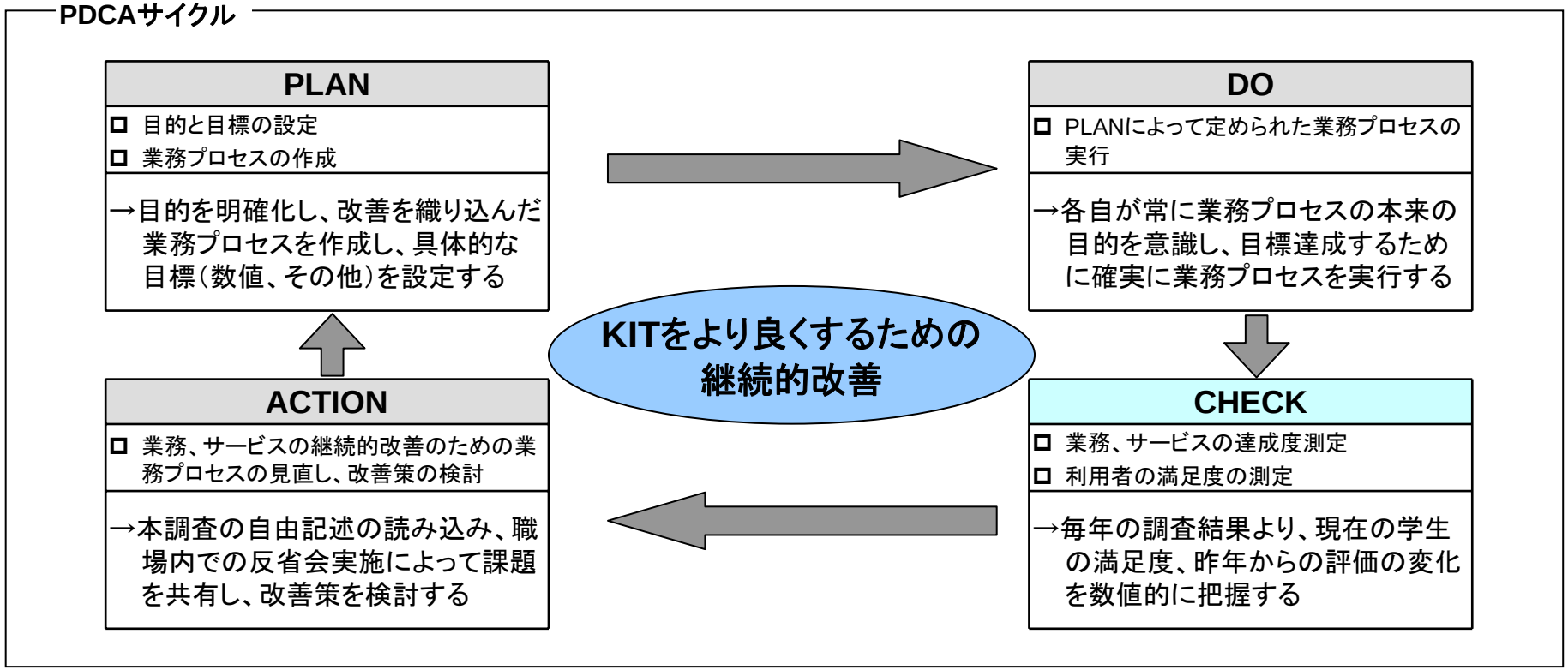
■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	・無回答は全て集計から除外した。 ・割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、−5点、−10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。

＜1-2＞調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

＜2-1＞在学生・卒業生の基本属性

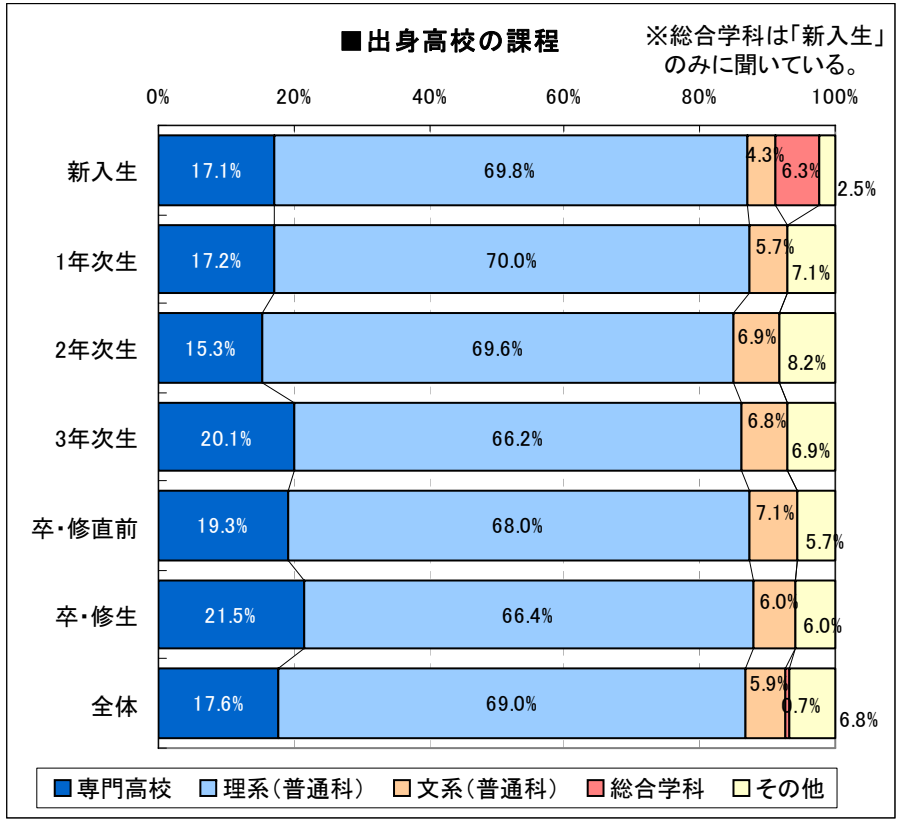
■所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

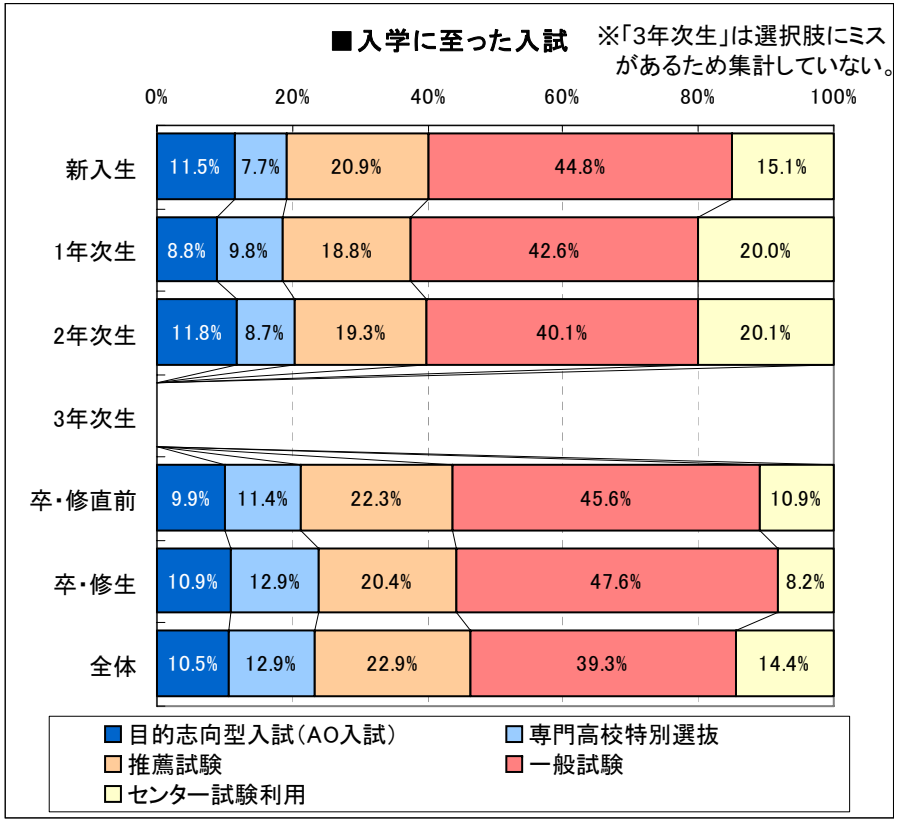
■在学生・卒業生の所属学部

（単位：人）

属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	無回答	全体
新入生	671	480	285	166	5	1,607
1年次生	645	363	223	180	―	1,411
2年次生	447	328	84	163	―	1,022
3年次生	378	175	140	88	―	781

属性	工学部	環境・建築学部	情報フロンティア学部	大学院	無回答	全体
卒・修直前	390	204	136	77	1	808
卒・修生	50	52	31	12	4	149





■在学生の出身地域

■在学生の出身地域

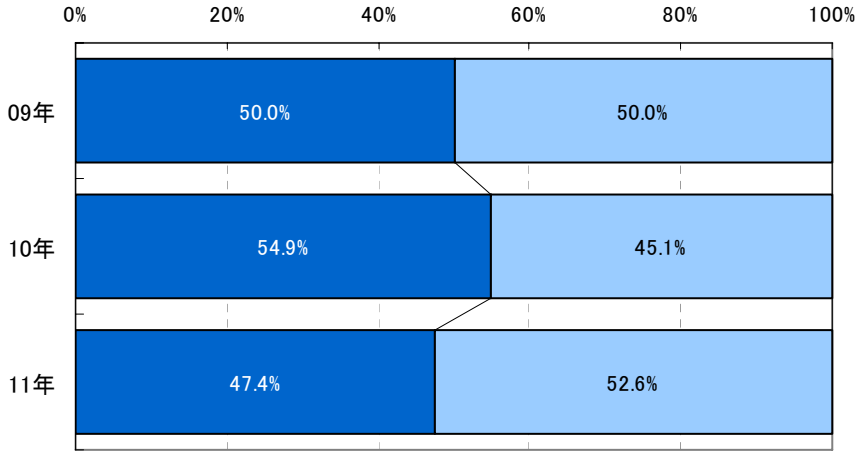
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	56	39	205	658	185	162	67	31	1403
	4.0%	2.8%	14.6%	46.9%	13.2%	11.5%	4.8%	2.2%	100.0%
2年次生	45	38	157	513	123	87	41	17	1021
	4.4%	3.7%	15.4%	50.2%	12.0%	8.5%	4.0%	1.7%	100.0%
3年次生	31	28	122	384	83	72	36	22	778
	4.0%	3.6%	15.7%	49.4%	10.7%	9.3%	4.6%	2.8%	100.0%
卒・修直前	39	26	123	376	113	76	37	13	803
	4.9%	3.2%	15.3%	46.8%	14.1%	9.5%	4.6%	1.6%	100.0%
全体	171	131	607	1931	504	397	181	83	4005
	4.3%	3.3%	15.2%	48.2%	12.6%	9.9%	4.5%	2.1%	100.0%

＜3-1＞在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

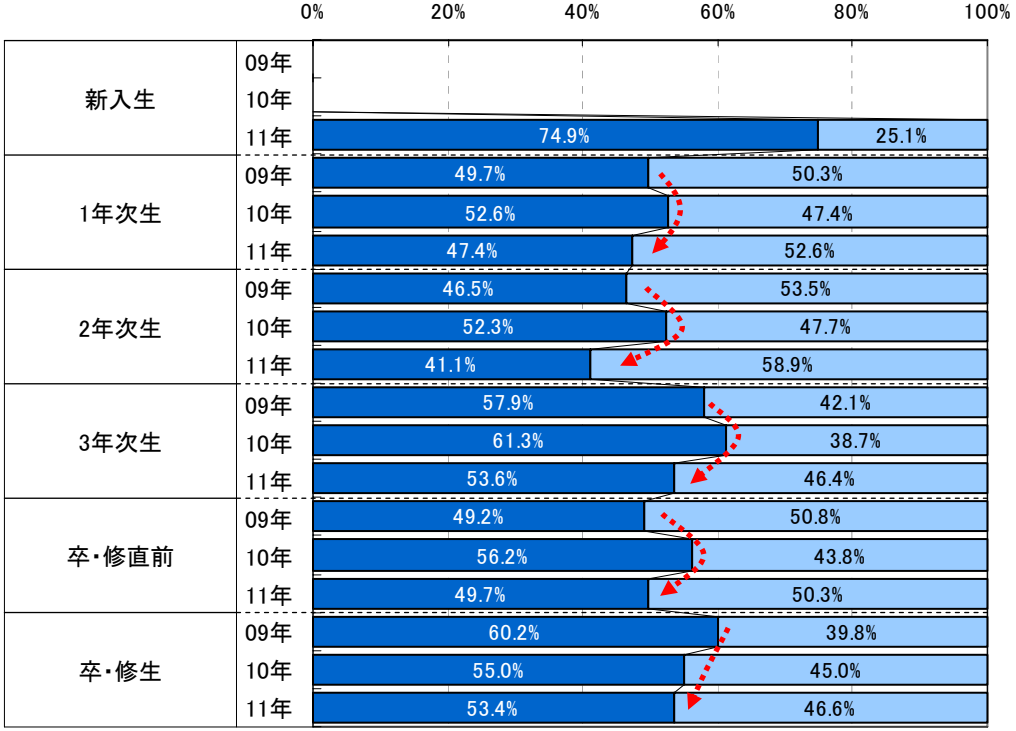
- 「現在の大学生活での目的・目標」に関して、在学生の数値だけを見ると、「目標あり」が47.4%で半数に達しておらず、「目標なし」が52.6%を占めていた。
- 在学生のみのデータで年度別の比較をすると、09年から10年には「目標あり」は4.9ポイント増加していたが、今回は前回を7.5ポイント下回っており、これまでの3年間で最も少なかった。
- 学年別の年度別比較を見ると、「1年次生」から「卒・修直前」の4学年は、いずれも09年から10年には「目標あり」の割合が増加していたが、11年にかけては減少していた。今回、特に「2年次生」は「目標あり」が41.1%と少なかった。
- 「卒・修生」は在学中には目標を持っていたかどうかと聞いているが、「目標あり」の割合は09年には60.2%と多かったが、年々低下してきていた。そして、「新入生」は11年から聞き始めたが、74.9%は「入学後にやりたいという目的・目標」を持っていることが分かった。

■現在の大学生活での目的・目標意識（在学生）



※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生」のみを対象として比較している。

■現在の大学生活での目的・目標意識
学年別・年度別比較



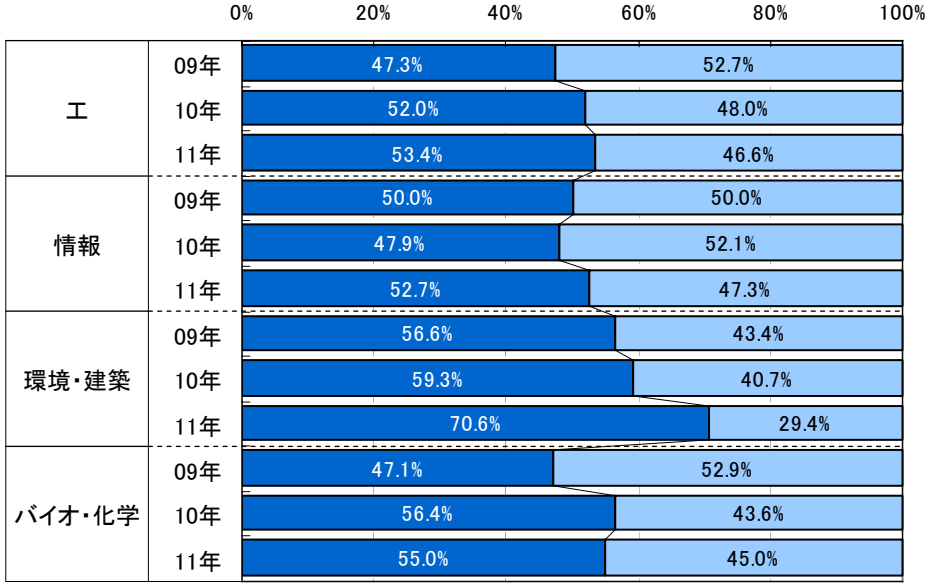
■目標あり　□目標なし

※上のグラフの「新入生」は今回から「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」と聞いている。

■目的・目標意識の学部別・年度別比較

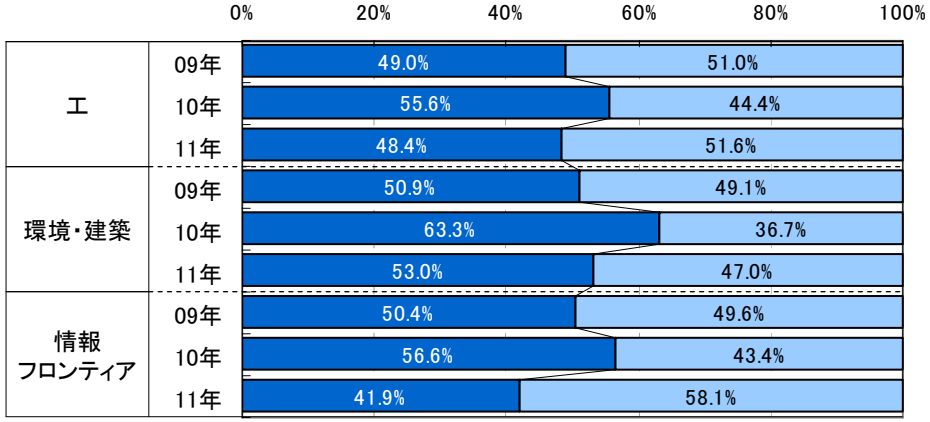
- 今回の調査対象者の所属する学部は、「新入生から3年次生」が新学部構成で「卒・修直前」が旧学部構成であり、異なる学部構成となっているため、別に集計して比較を行った。この報告書においては全て同様に新旧の学部構成で分けて集計を行っている。ただし、前年は「新入生から2年次生」と「3年次生以降」が同一の学部構成となっているため、直接的な比較は難しく、参考として比較を行っている。
- 「新入生から3年次生」では、「新入生」の影響が大きいものと思われるが、11年に「目標あり」の割合が多くなっている学部が目についた。特に「環境・建築学部」の11年では70.6%が「目標あり」と答えており、「工学部」「情報学部」でも「目標あり」の割合はこれまでで最も高かった。
- 「卒・修直前」は「3年次生」が抜けた影響が多いと思われるが、11年は10年にと比べて低くなる傾向が見られた。特に「情報フロンティア学部」の11年は「目標あり」の割合が41.9%と非常に低く、「工学部」もこの3年間で最も低い結果となっていた。

■新入生～3年次生　現在の目的・目標意識



※前々回は「新入生、1年次生」、前回は「新入生～2年次生」であったが、今回は「新入生～3年次生」までを加えた値となっている。

■卒・修直前　現在の目的・目標意識



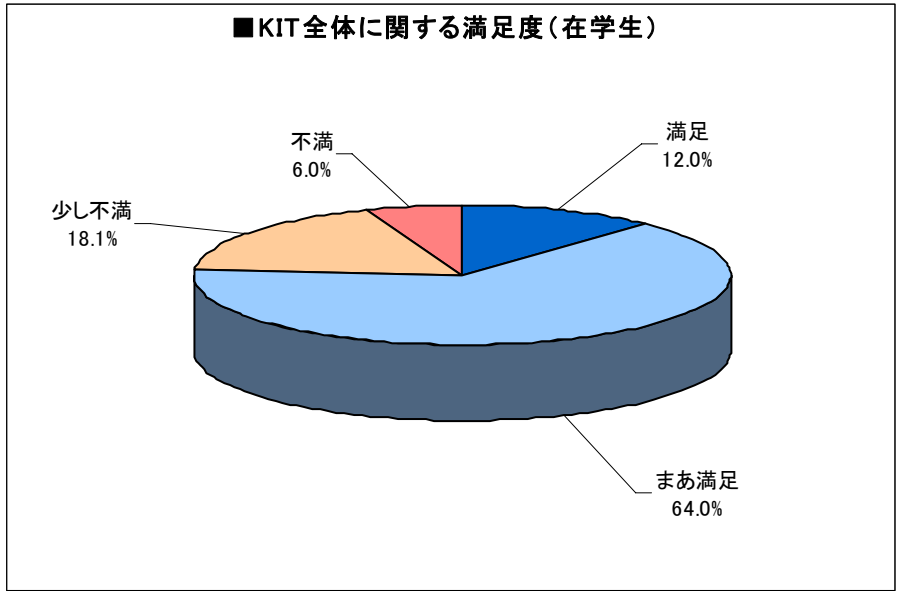
※前々回は「2年次生～卒・修直前」、前回は「3年次生、卒・修直前」であるが、今回は「卒・修直前」だけの値となっており、いずれの年度も「卒・修生」は加えていない。

■目標あり　□目標なし

＜4-1＞KITの総合満足度

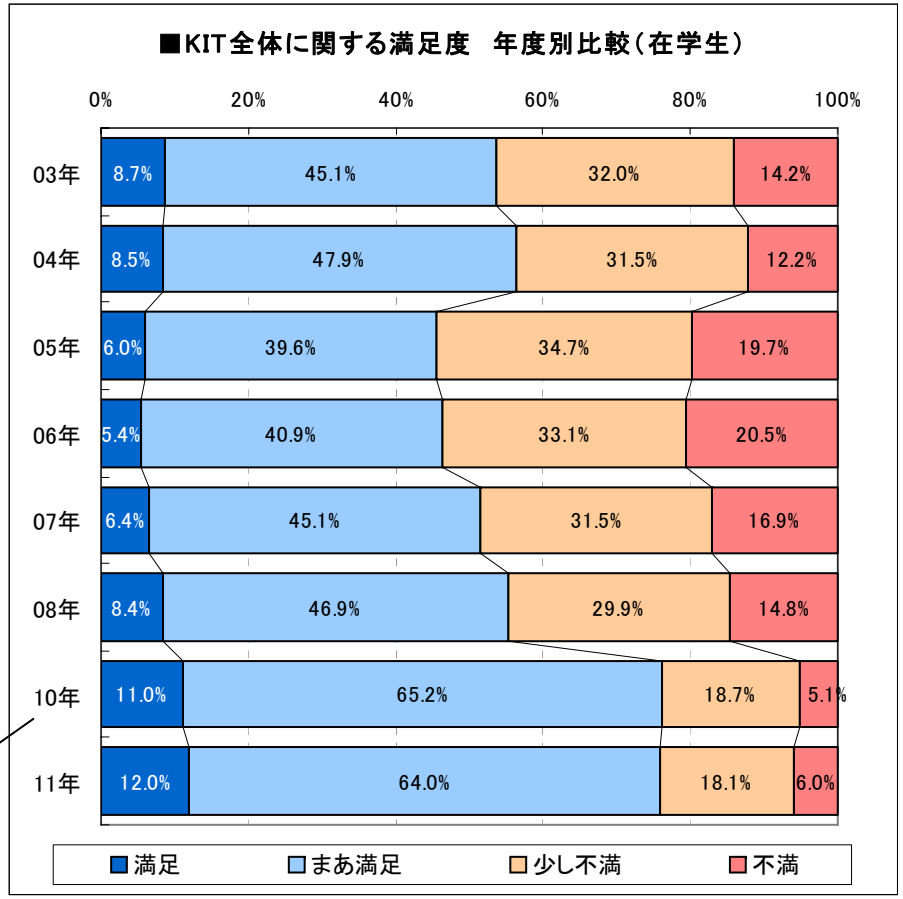
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」を聞いたところ、「満足」は12.0%、「まあ満足」は64.0%であり、合わせると76.0%がKITに満足と答えていた。一方、「不満」は6.0%、「少し不満」は18.1%であり、合わせて24.1%が不満と答えていた。
- 「KITに対する満足度」の質問に関しては、03年から08年には「今のKITに満足していますか？」という質問に対して、「そう思う」～「そう思わない」の4段階で聞いており、現在とは聞き方が異なっている。また、09年にはこの質問は行っていなかったが、参考のため年度別比較を行った。
- 「KITに満足している」という回答は、05年から08年にかけてわずかずつ増加する傾向が見られた。そして、10年には、聞き方は異なっているが満足しているという回答が一気に増加していた。今回は前回とほぼ同じ結果であり、満足度は変わっていないと言える。



満足している（76.0%）　＞　不満を持っている（24.1%）

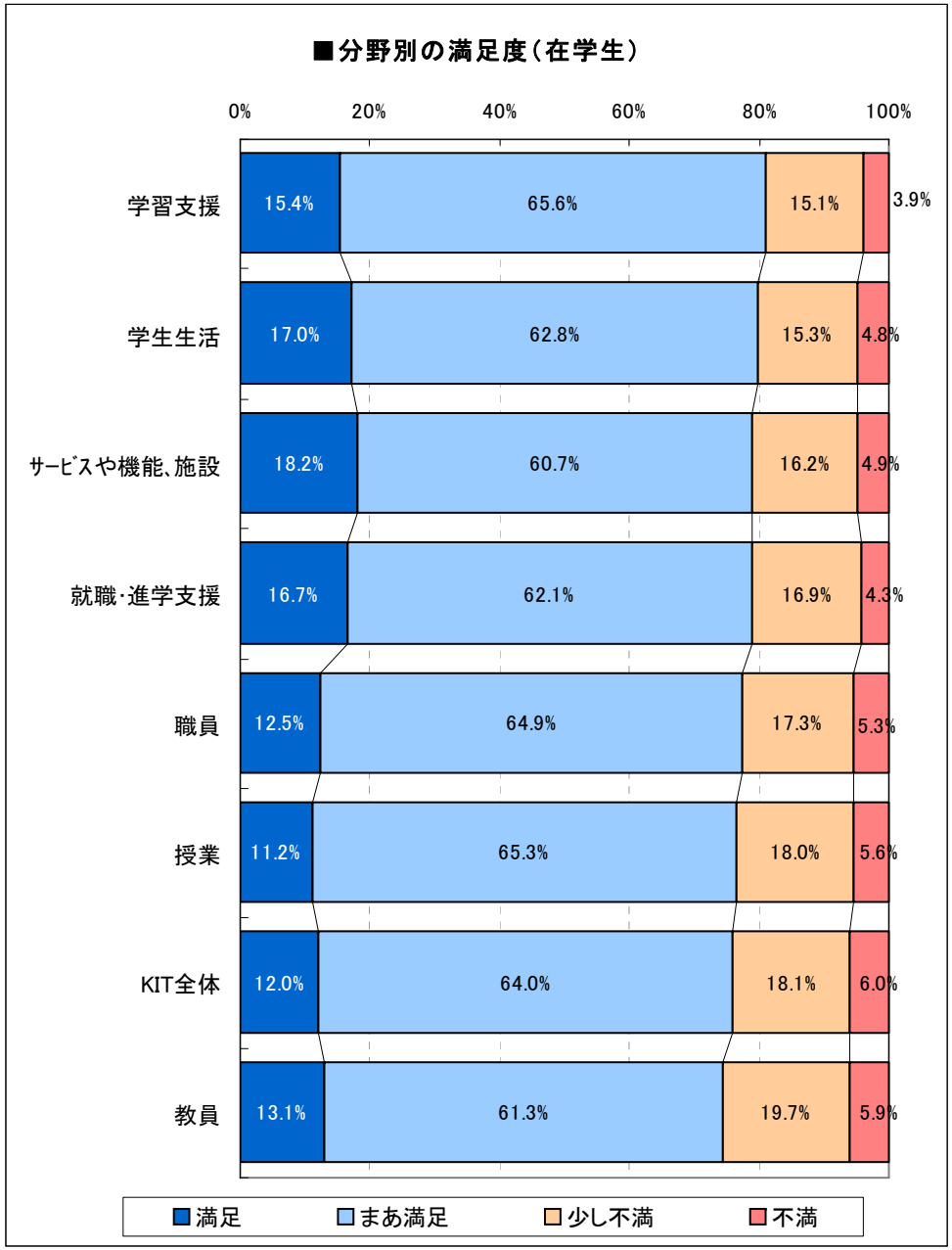
10年から聞き方が変わっている



＜4-2＞分野別の満足度

■分野別満足度

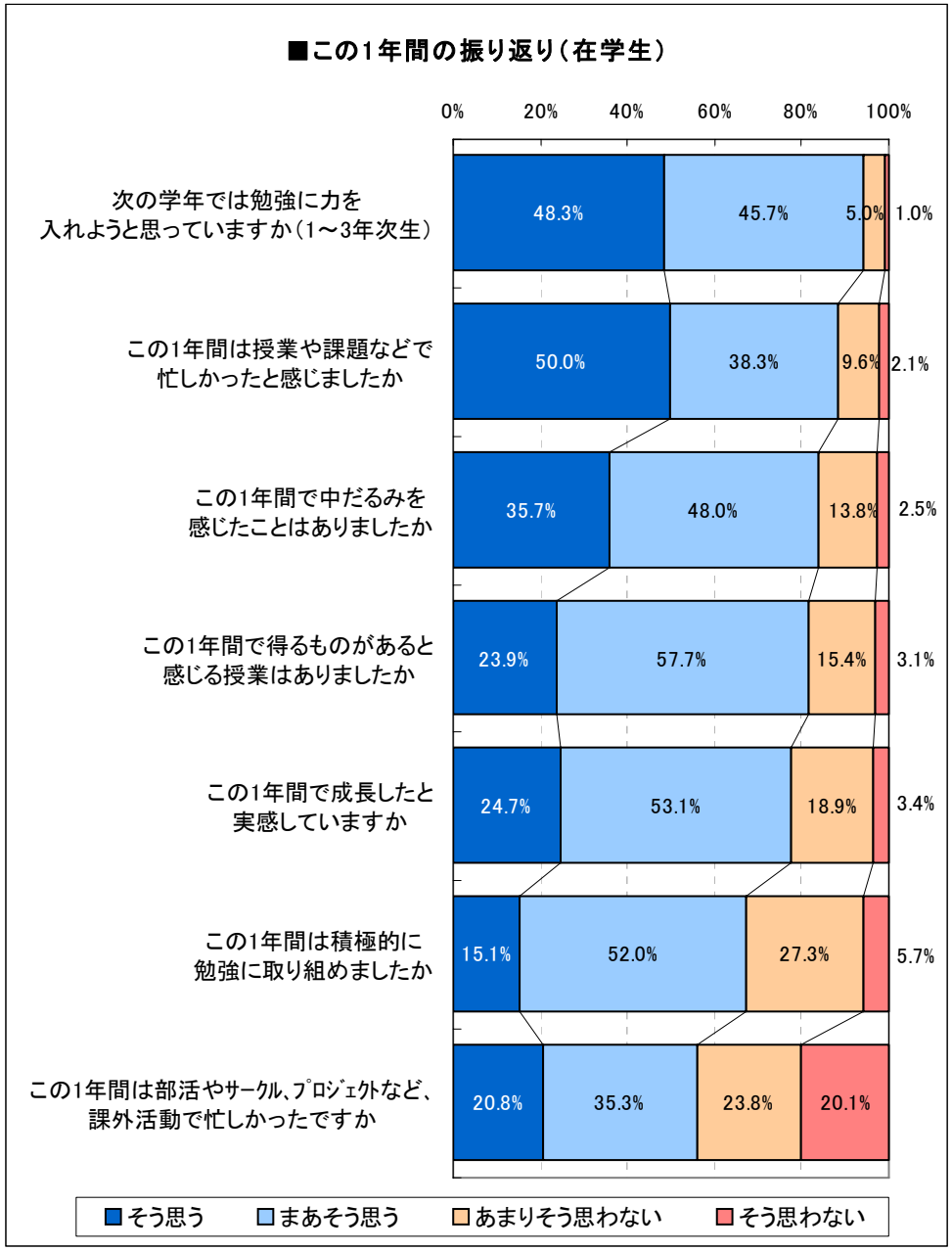
- 「KIT全体の満足度」も含めて、大学機能の各分野の満足度を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 最も満足度が高かったのは「学習支援」であり、81.0%が満足と答えており、大学として重要な機能である「学習支援」の満足度が高いという、良い結果が見られた。
- 上記に次いで「学生生活」(79.8%)、「サービスや機能、施設」(78.9%)、「就職・進学支援」(78.8%)と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」であり、満足という回答は74.4%であった。そして、「KIT全体」「授業」「職員」と続いていた。
- 「学習支援」(81.0%)と比べると「授業」に満足しているという意見は76.5%と4.5ポイント低かった。



＜4-3＞この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

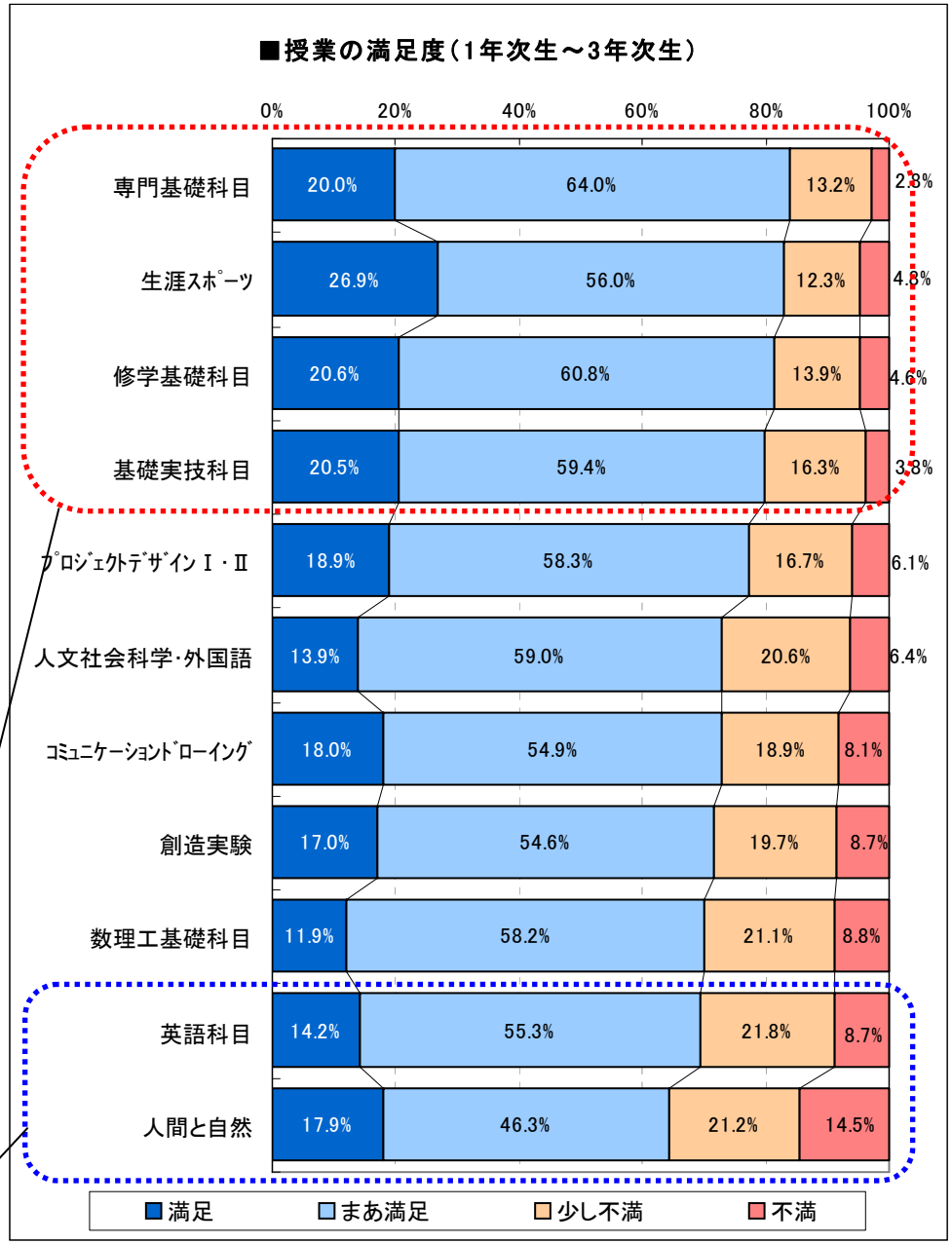
- この1年間の振り返りに関する質問は今回から加えた質問であるが、勉強や成長、中だるみなど、6つの項目に関して聞いた。そして、1年次生から3年次生に向けては、「次の学年では勉強に力を入れようと思っていますか」と聞いている。
- 最も肯定的な意見が多かったのは「次の学年では勉強に力を入れようと思っていますか」であり、48.3%が「そう思う」、45.7%が「まあそう思う」であり、合わせると94.0%が次の学年で頑張りたいと答えていた。
- 上記に次いで「この1年間は授業や課題などで忙しかったと感じましたか」に関しては88.3%が肯定的な意見であり、多くの学生が忙しいと感じていることが分かった。ただし、「中だるみを感じたことはありましたか」に対しては83.7%が肯定的な意見であり、忙しいと思いながらも中だるみを感じているようであった。
- 「この1年間で得るものがあると感じる授業はありましたか」「この1年間で成長したと実感していますか」の2項目に関しては約8割が肯定的な意見であったが、「この1年間は積極的に勉強に取り組めましたか」では肯定的な意見は67.1%とやや少なかった。
- 「この1年間は部活やサークル、プロジェクトなど、課外活動で忙しかったですか」という正課以外の活動への取り組みに関しての質問に関しては、肯定的な意見は56.1%にとどまっていた。



＜5-1＞授業の評価（1年次生～3年次生）

■授業の評価　1年次生～3年次生

- 授業の構成が、4学部構成（新構成）と3学部構成（旧構成）で内容や呼称が異なるため、別々に集計を行っている。
- 4学部構成の「1年次生」～「3年次生」の評価を見ると、最も満足度が高かったのは「専門基礎科目」であり、「満足」が20.0%、「まあ満足」が64.0%で、合わせると84.0%が満足と答えていた。
- 上記に次いで「生涯スポーツ」「修学基礎科目」「基礎実技科目」といった科目の満足度が高く、上位の3科目は満足しているという回答が8割を超えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然」であり、満足しているという回答は64.2%であった。そして、「英語科目」も満足という回答は69.5%であり、この2科目は満足しているという回答が7割未満であった。



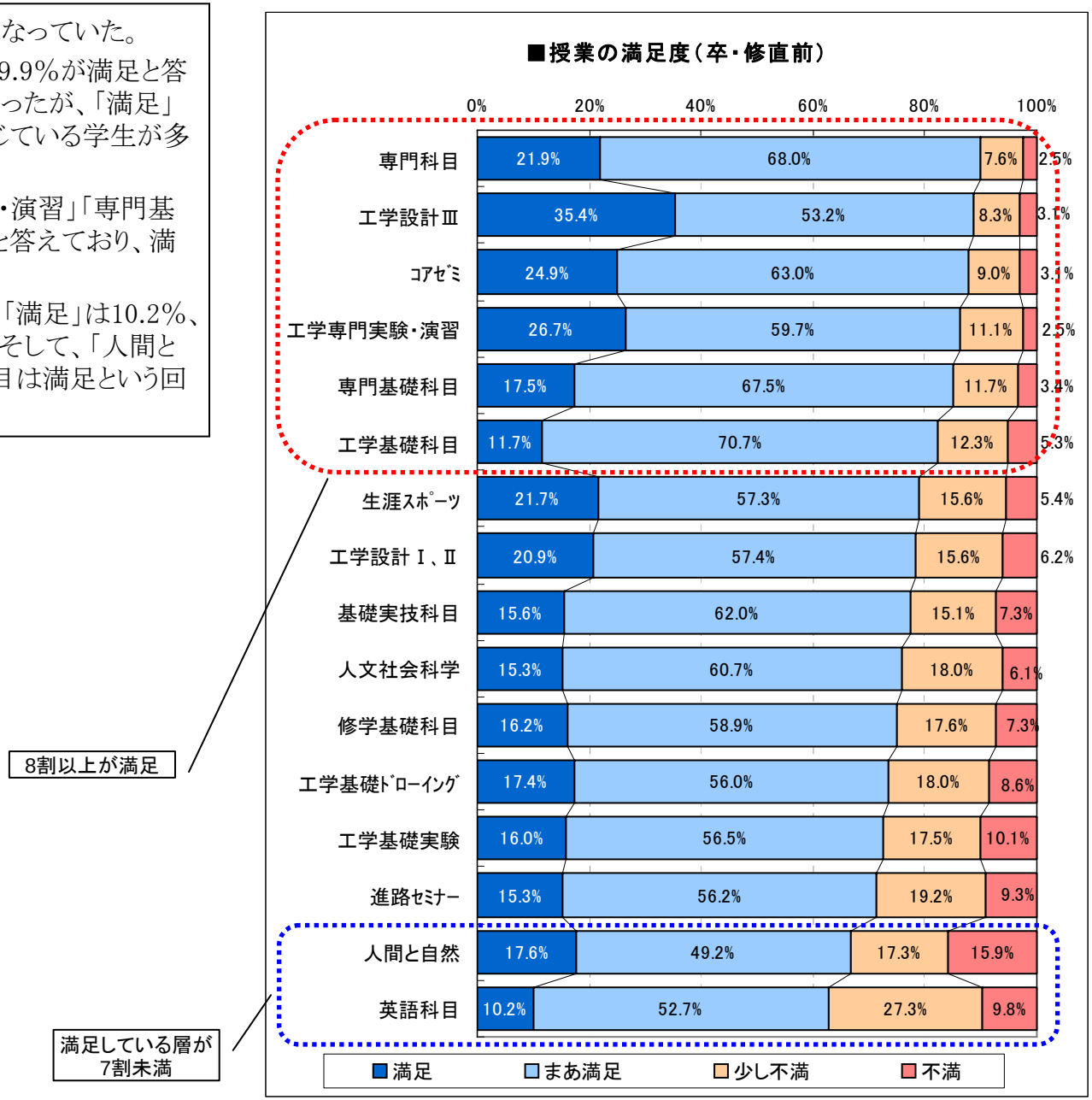
おおよそ
8割以上が満足

満足している層が
7割未満

＜5-2＞授業の評価（卒・修直前）

■授業の評価　卒・修直前

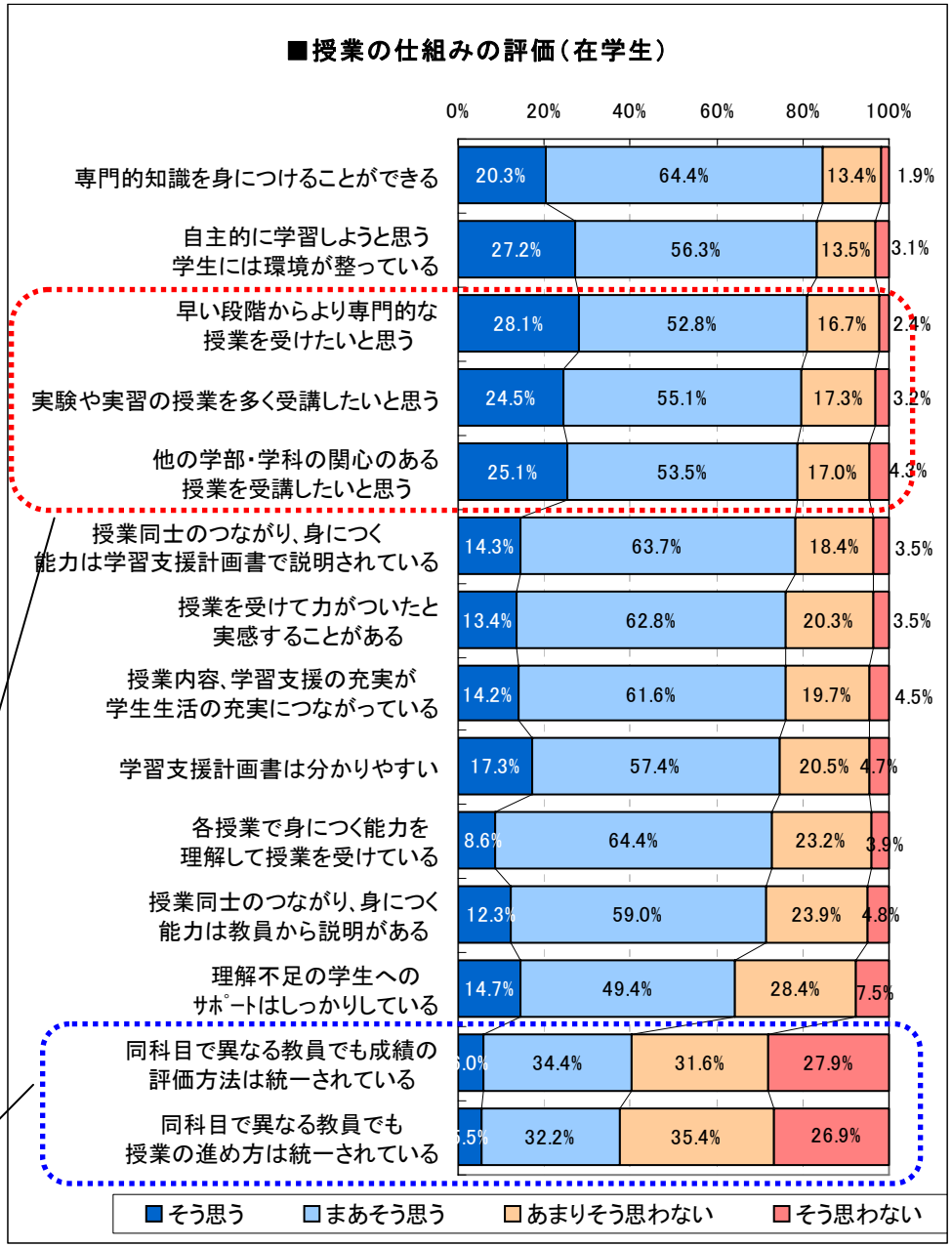
- 卒・修直前の授業の満足度は右のグラフのようになっていた。
- 最も満足度が高かったのは「専門科目」であり、89.9%が満足と答えていた。次いで「工学設計Ⅲ」の満足度が高かったが、「満足」だけを見ると35.4%と最も多く、強い満足感を感じている学生が多くいることが分かった。
- 上記の2科目に加えて「コアゼミ」「工学専門実験・演習」「専門基礎科目」「工学基礎科目」までは8割以上が満足と答えており、満足度の高い科目と言える。
- 一方、最も満足度が低かったのは「英語」であり、「満足」は10.2%、「まあ満足」は52.7%で合わせると62.9%あった。そして、「人間と自然」も満足という回答は66.8%であり、この2科目は満足という回答が7割に満たなかった。



＜5-3＞授業の仕組みの評価

■授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みに関する評価を聞いたところ、最も評価が高かったのは「専門知識を身につけることができる」であり、「そう思う」が20.3%、「まあそう思う」が64.4%であり、合わせると84.7%は肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」では83.5%が肯定的な意見であり、学習環境の評価も非常に高かった。
- 3番目は「早い段階からより専門的な授業を受けたいと思う」であり、肯定的な意見は80.9%であった。この質問に関しては肯定的な意見が多いほど不満が多いということになるが、続く2項目も同様に「実験や実習の授業を多く受講したいと思う」（肯定意見79.6%）、「他の学部・学科の関心のある授業を受講したいと思う」（肯定意見78.6%）という不満を聞く質問となっており、これらを見るとより専門的で他の専攻であっても興味のある授業を早い時期に受けたいと思っているという学生のニーズが感じられる。
- 評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」と「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」の2項目であり、いずれも肯定的な意見は4割程度で、同科目で異なる教員の対応に大きな不満があることが分かる。



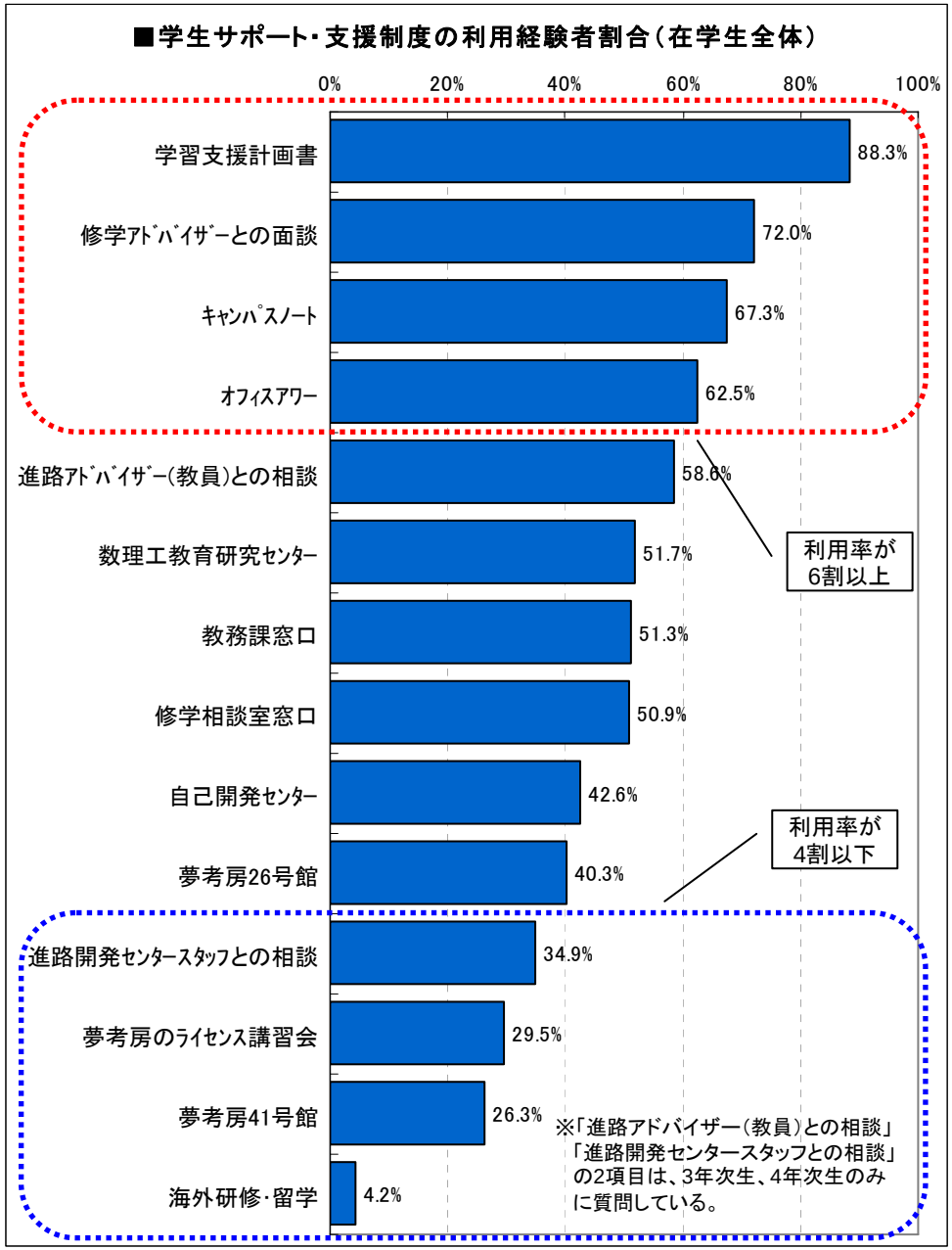
要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

＜5-4＞学生サポート・支援制度の利用状況

■学生サポート・支援制度の利用経験者割合

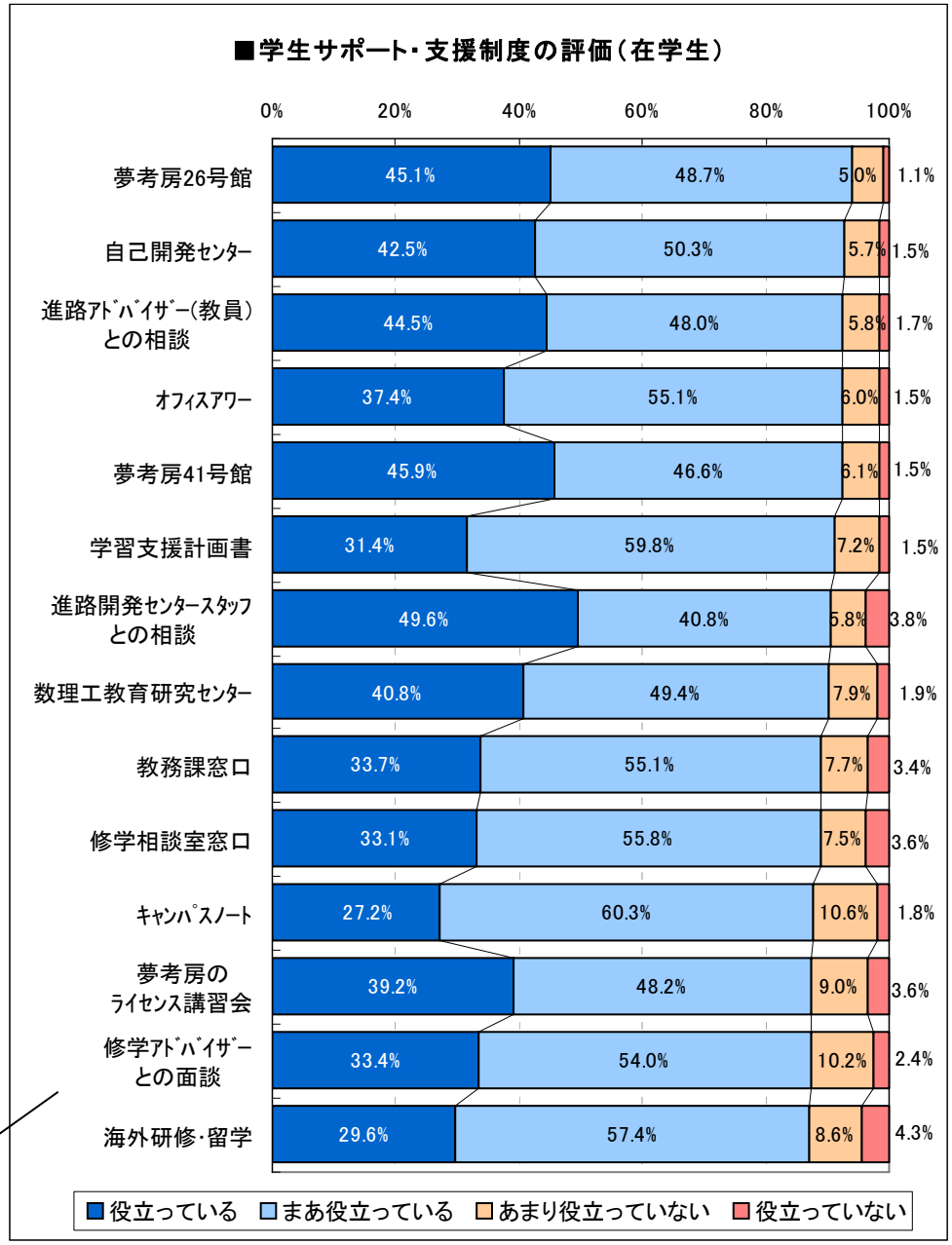
- 学生サポート・支援制度に関しては、利用経験と評価を聞いているが、まず利用経験を見ると右記のようになる。
- 最も利用率が高かったのは「学習支援計画書」であり、88.3%が利用経験ありと答えていた。この数値は高いものの、残りの11.7%が学習支援計画書を利用したことがないという点も気になる点と言える。
- 上記に次いで「修学アドバイザーとの面談」が72.0%、「キャンパスノート」が67.3%、「オフィスアワー」が62.5%であり、ここまでの4項目は利用率が6割以上であった。
- 一方、最も利用率が低かったのは「海外研修・留学」であり、利用者の割合は4.2%で、他の項目と比べて利用率の低さが目立っていた。
- 「夢考房41号館」(26.3%)、「夢考房のライセンス講習会」(29.5%)、「進路開発センタースタッフとの相談」(34.9%)などの利用率も低く、ここまでの4項目の利用率は4割に満たなかった。



＜5-5＞学生サポート・支援制度の評価

■学生サポート・支援制度の評価

- 学生サポート・支援制度の利用者に対して、各機能が役立っているかどうかの評価を聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」を合わせると、全ての項目で8割以上（最低で87.0%）が役立っていると答えており、利用率は異なるものの利用者からの評価は非常に高いことが分かった。
- 最も評価が高かったのは「夢考房26号館」であり、93.8%が満足と答えていた。次いで「自己開発センター」（92.8%）、「進路アドバイザー（教員）との相談」（92.5%）、「オフィスアワー」（92.5%）と続いていた。
- 「役立っている」だけを見ると「進路開発センタースタッフとの相談」が最も高く49.6%であり、評価は非常に高いと言える。
- 一方、最も評価が低かったのは「海外研修・留学」であったが、低いといっても87.0%は満足と答えており、大きな問題があるとは思えない結果であった。

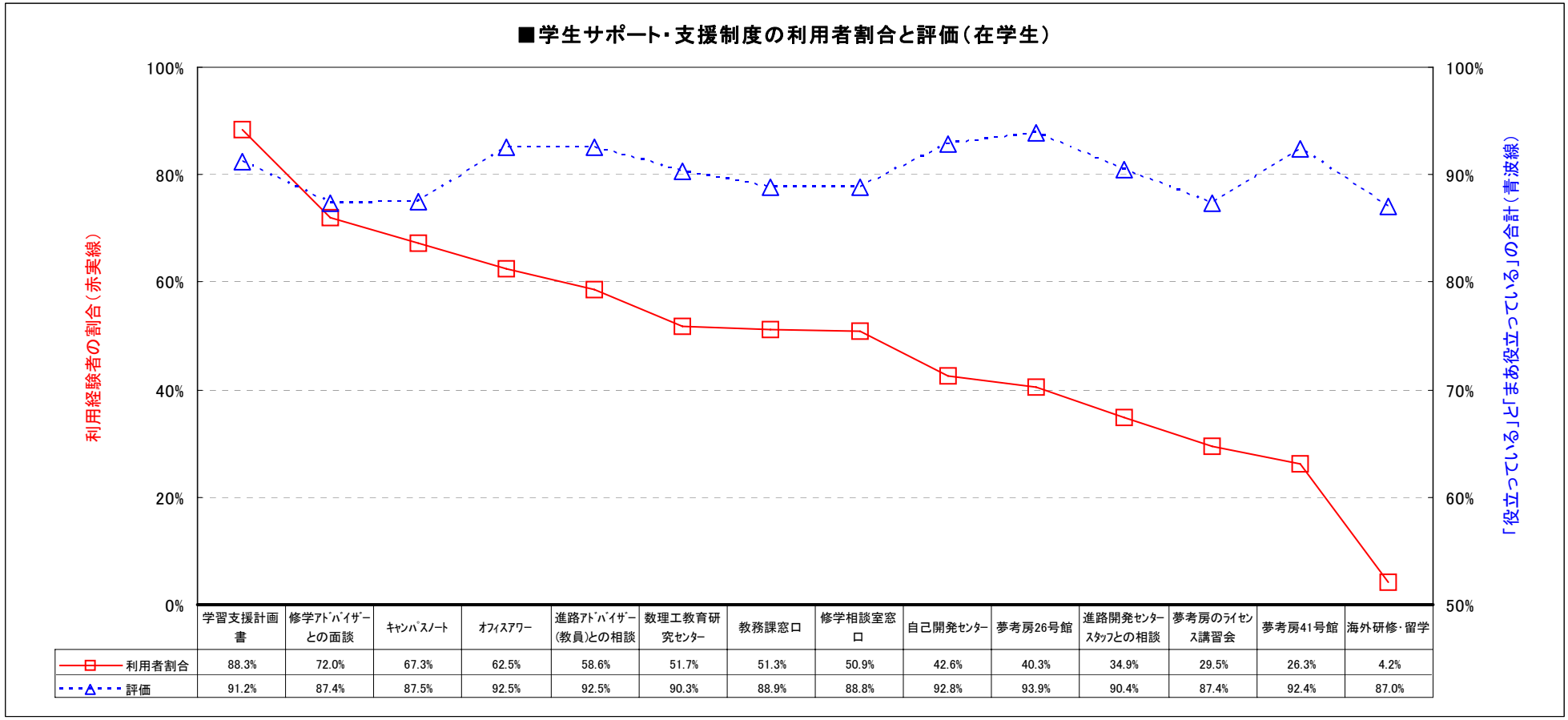


全体的に評価は非常に高い

＜5-6＞学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者割合と内容評価を一緒に比較したところ、下記のグラフのようになった。赤い実線が利用経験者の割合であり、グラフの左側の数値軸に対応している。青い波線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用者割合は約90％～数％まで大きな幅があるが、役立っているという意見はいずれも8割以上であり、内容的には高い評価を得ていることが分かった。

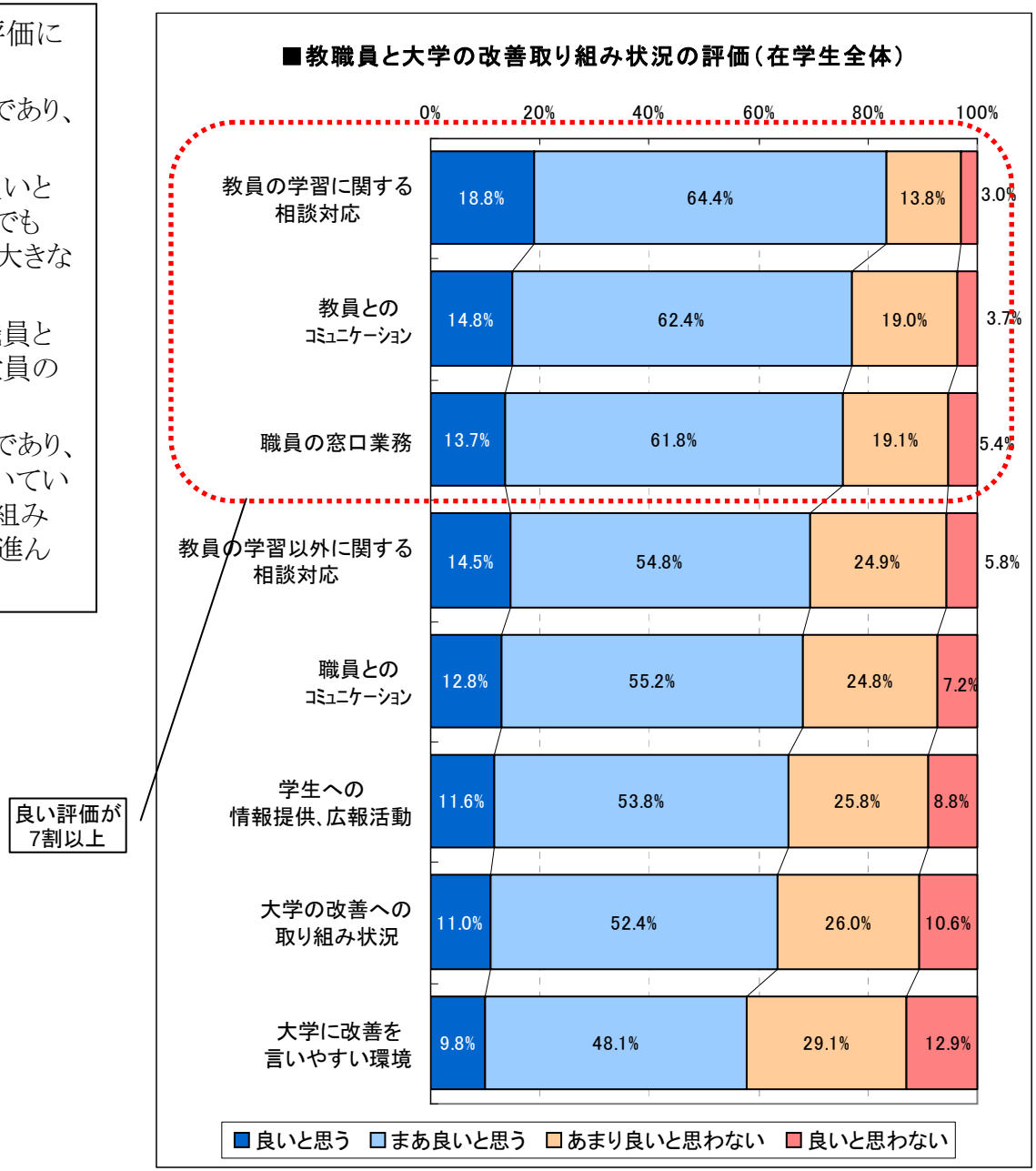


	学習支援計画書	修学ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰとの面談	ｷｬﾝﾊﾟｽﾉｰﾄ	ｵﾌｨｽｱﾜｰ	進路ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ(教員)との相談	数理工教育研究ｾﾝﾀｰ	教務課窓口	修学相談室窓口	自己開発ｾﾝﾀｰ	夢考房26号館	進路開発ｾﾝﾀｰｽﾀｯﾌとの相談	夢考房のﾗｲｾﾝｽ講習会	夢考房41号館	海外研修・留学
利用者割合	88.3%	72.0%	67.3%	62.5%	58.6%	51.7%	51.3%	50.9%	42.6%	40.3%	34.9%	29.5%	26.3%	4.2%
評価	91.2%	87.4%	87.5%	92.5%	92.5%	90.3%	88.9%	88.8%	92.8%	93.9%	90.4%	87.4%	92.4%	87.0%

＜6-1＞教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

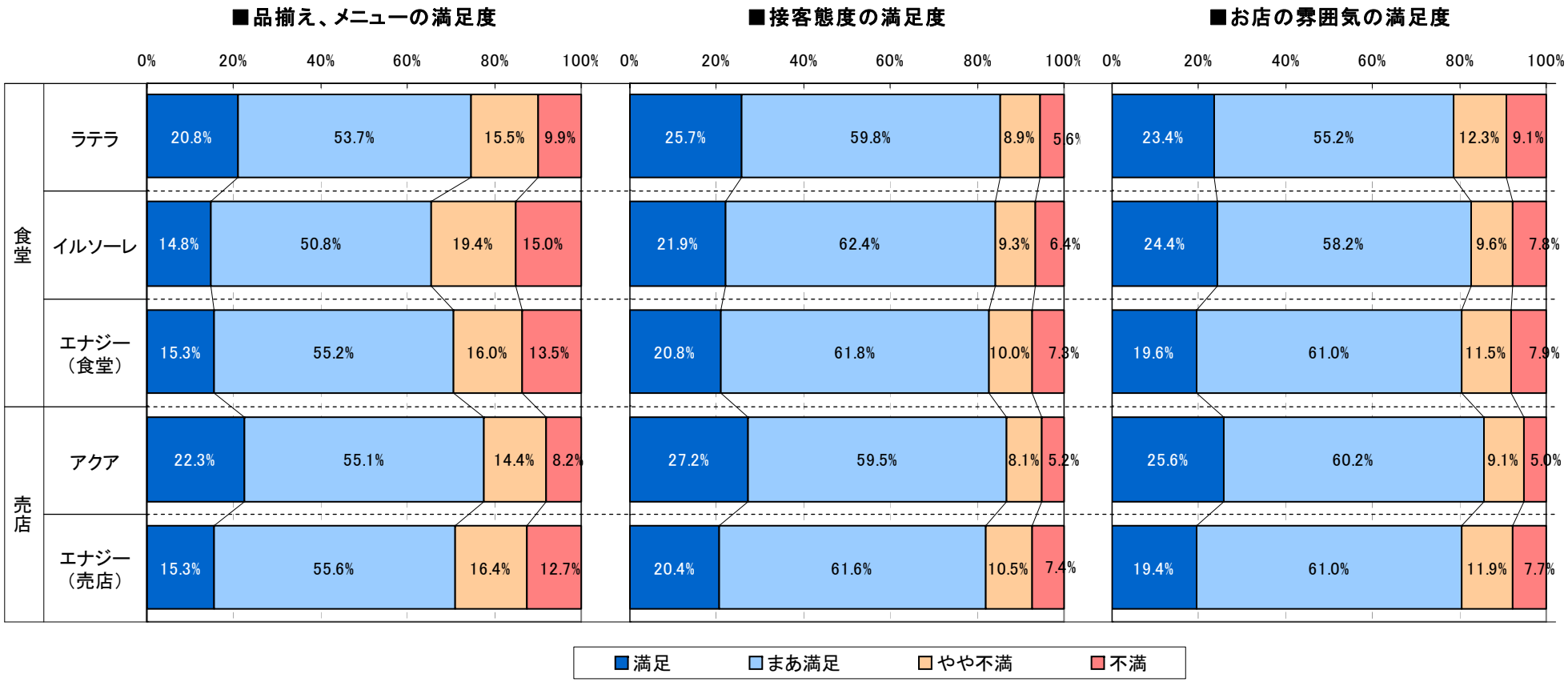
- 教職員に対する評価と、大学の改善への取り組み状況の評価に関して、8項目の評価を聞いた。
- 最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、83.2%が良いと評価していた。
- 上記に次いで「教員とのコミュニケーション」には77.2%が良いという評価をしており、「教員の学習以外に関する相談対応」でも69.3%が良いという評価で、教員の学生に対する対応には大きな問題は無さそうであった。
- 職員に関する質問では「職員の窓口業務」では75.5%、「職員とのコミュニケーション」では68.0%が肯定的な意見であり、教員の評価よりもやや低かった。
- 最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、肯定的な意見は57.9%にとどまっており、大学に意見が届いていないと感じているようであった。また、「大学の改善への取り組み状況」でも肯定的な意見は63.4%にとどまっており、改善が進んでいないと感じている学生も少なくなかった。



＜7-1＞食堂、売店の評価

■全体評価

- 学内の食堂（3箇所）、売店（2箇所）に関して、「品揃え、メニュー」「接客態度」「お店の雰囲気」の3つのポイントで評価を聞いた。
- 「品揃え、メニューの満足度」に関して「満足」と「まあ満足」を合わせた割合で比較すると、食堂では「ラテラ」が74.5％で最も満足度が高く、「エナジー（食堂）」が70.5％、「イルソーレ」が65.6％と続いていた。また、売店では「アクア」の満足度が77.4％と最も高く、「エナジー（売店）」は70.9％であった。食堂、売店に関しては、どの施設に関しても6割以上が満足と答えていた。
- 「接客態度」の評価はいずれも8割以上が満足しており、差は少なかった。食堂では「ラテラ」の満足度が高く、売店では「アクア」が高かった。
- 「お店の雰囲気」に関しても全体的に高く、施設間の差はそれほど大きくなかった。食堂では「イルソーレ」が最も高く、82.6％が満足と答えており、「ラテラ」が78.6％で最も低かった。売店では「アクア」で85.8％が満足と答えており、食堂を合わせた施設全体の中で最も高かった。

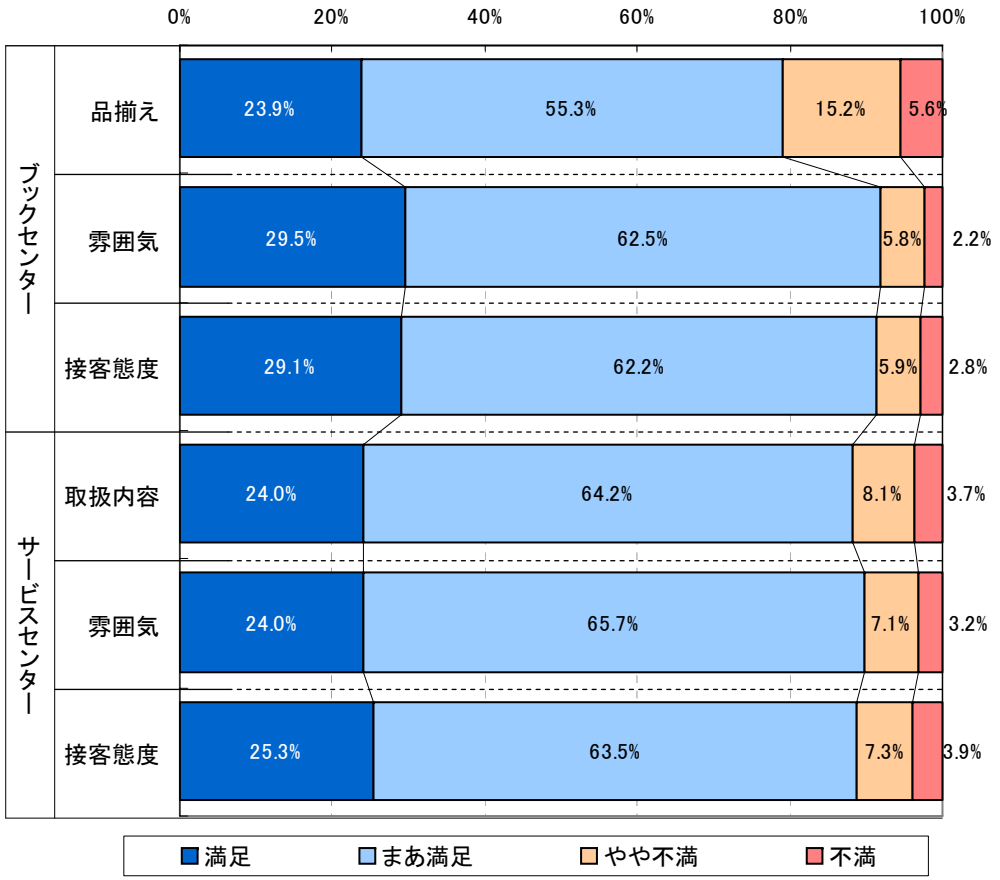


＜7-2＞ブックセンターとサービスセンターの評価

■ブックセンターとサービスセンターの分野別満足度

- 「ブックセンター」と「サービスセンター」に関しても、「品揃え・取扱内容」「雰囲気」「接客態度」の3項目の評価を聞いた。
- 「ブックセンター」の評価を見ると、「品揃え」については79.2%が満足と答えていたが、「雰囲気」は92.0%、「接客態度」は91.3%と非常に評価が高かった。
- 「サービスセンター」の満足度も高く、「取扱内容」が88.2%、「雰囲気」が89.7%、「接客態度」が88.8%と、全ての項目で9割近くの学生が満足と答えていた。

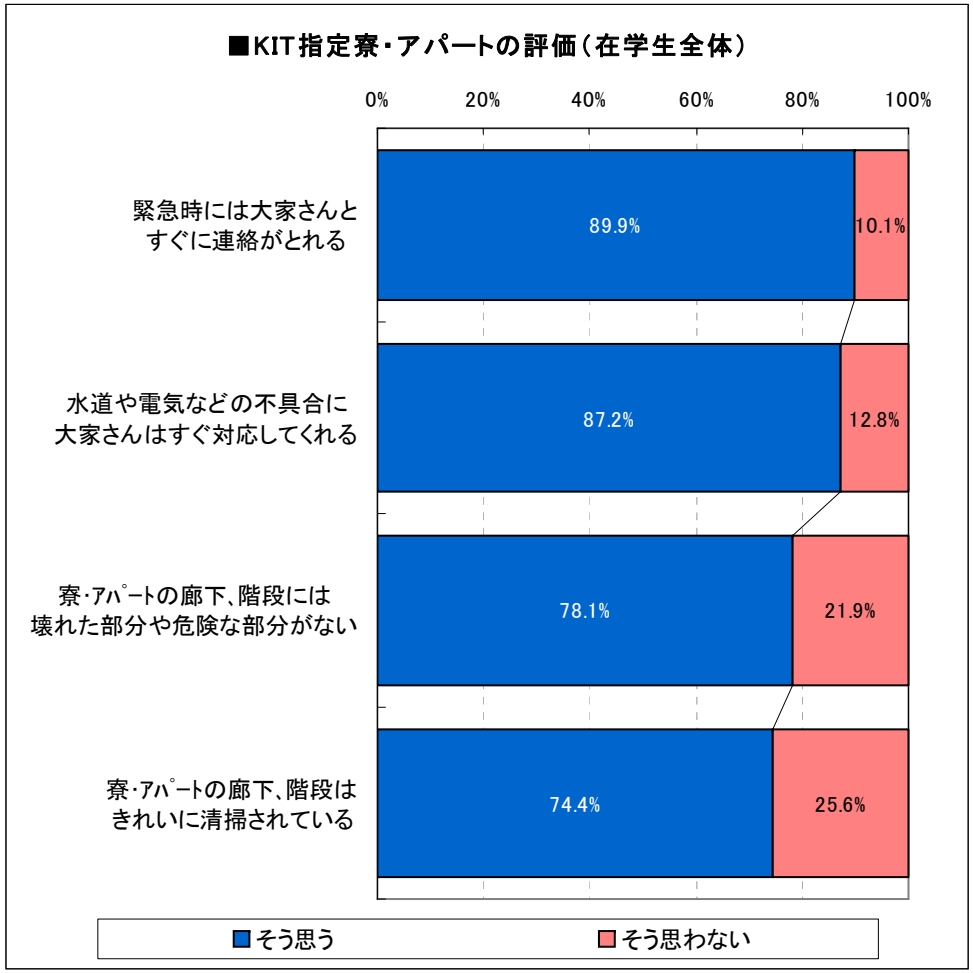
■ブックセンターとサービスセンターの分野別満足度



＜7-3＞KIT指定寮・アパートの評価

■KIT指定寮・アパートの評価

- KIT指定寮・アパートの評価は今回から加えた質問であり、結果は右のグラフのようになっていた。質問では「KIT指定寮・アパートの入居者か否か」を聞いていないが、実際の回答では下の表のように約38％が「無回答」であり、これが非入居者の割合になっているものと思われ、グラフではそれを除いて集計している。
- 「緊急時には大家さんとすぐに連絡がとれる」では89.9％が「そう思う」と答えていた。また、「水道や電気などの不具合に大家さんはすぐ対応してくれる」でも87.2％が「そう思う」と答えており、大家さんとの関係は良好なようであった。
- 「寮・アパートの廊下、階段には壊れた部分や危険な部分がない」では78.1％、「寮・アパートの廊下、階段はきれいに清掃されている」では74.4％が「そう思う」という回答であり、清掃や修繕に関しては、20％～25％の学生が不充分だと感じていることが分かった。



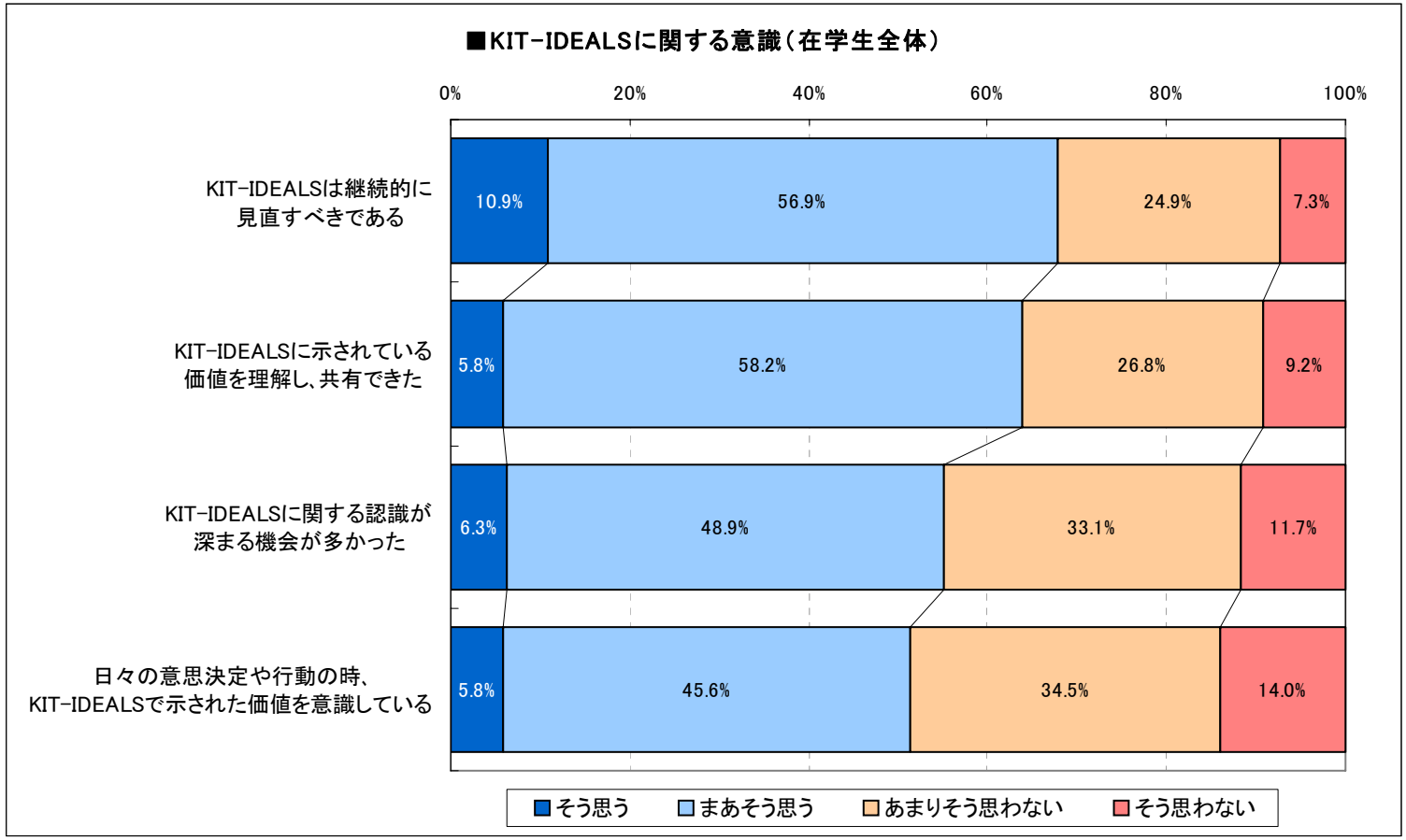
■「無回答」も含めた回答割合

	そう思う	そう思わない	無回答
緊急時には大家さんとすぐに連絡がとれる	56.0%	6.3%	37.7%
水道や電気などの不具合に大家さんはすぐ対応してくれる	54.1%	8.0%	37.9%
寮・アパートの廊下、階段には壊れた部分や危険な部分がない	48.8%	13.7%	37.5%
寮・アパートの廊下、階段はきれいに清掃されている	46.5%	16.0%	37.5%

＜8-1＞KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

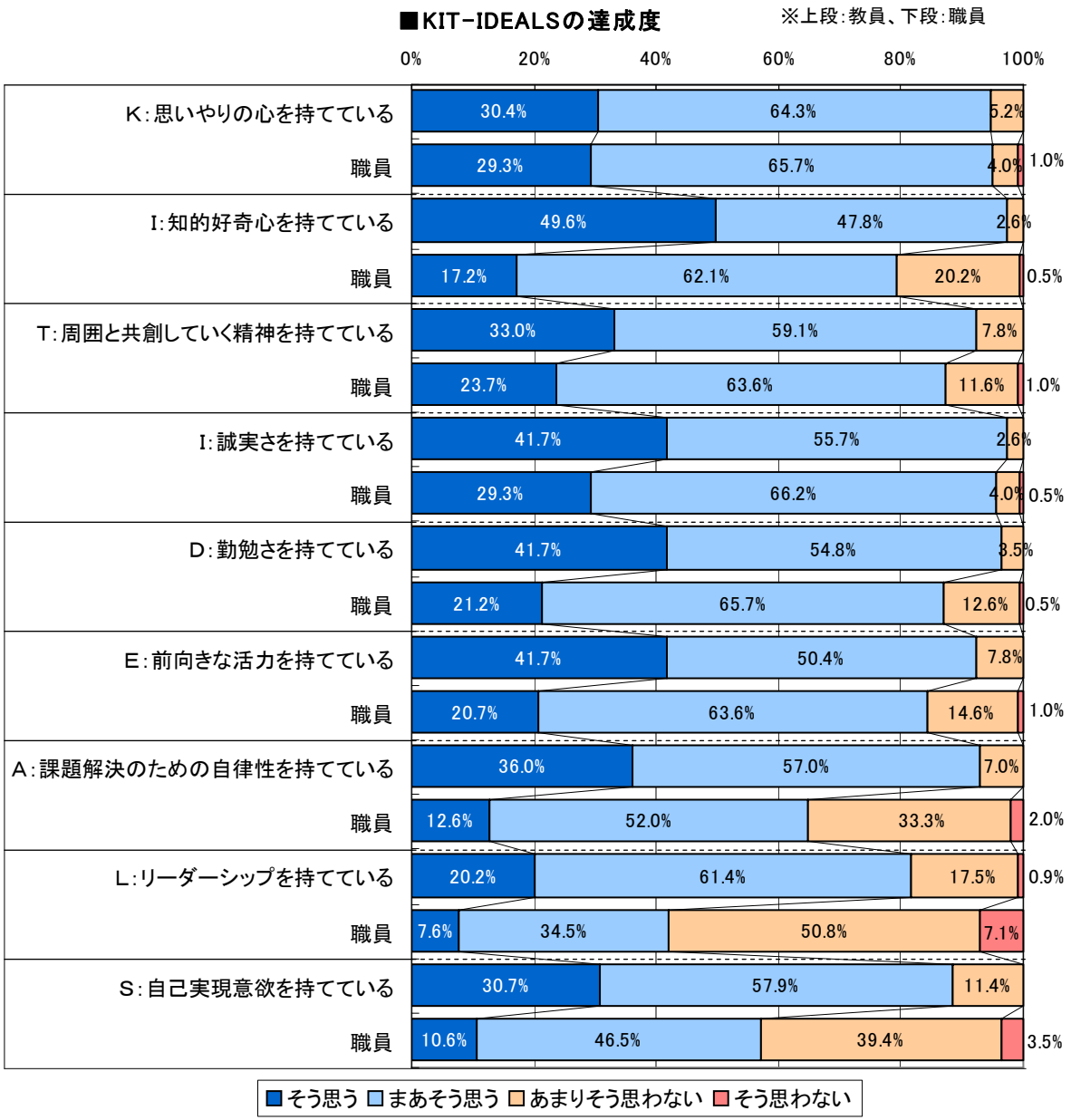
- KIT-IDEALSに関する意識を見ると、「KIT-IDEALSは継続的に見直すべきである」では肯定的な意見が67.8%であり、見直しを求める意見が7割近くあることが分かった。
- 上記に次いで肯定的な意見が多かったのは「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」の64.0%で、6割を超える学生が価値を理解して共有できていることが分かった。ただし、36.0%は否定的な意見であり、価値を理解できていない学生も少なくなかった。
- 「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では55.2%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では51.4%が肯定的な意見であり、この2つの項目では肯定的な意見がほぼ半数という結果であった。



＜8-2＞教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

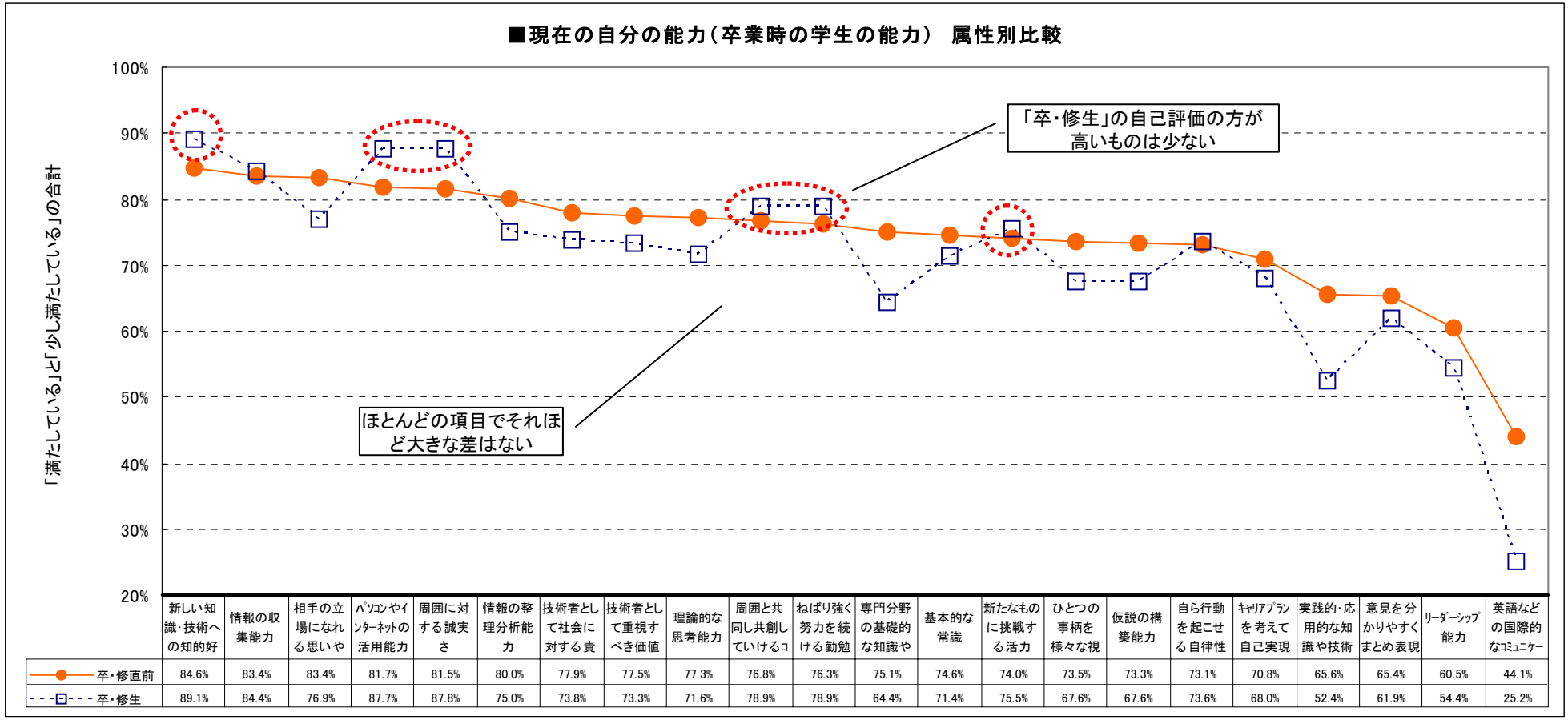
- 教職員には「KIT-IDEALS」の各項目に関する達成度を聞き、その結果を比較した。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「K：思いやりの心を持てている」では「教員」と「職員」の差はほとんどなかったが、その他の項目では全て「教員」の方が肯定的な意見が多かった。「そう思う」という回答だけで比べるとその差は明らかであり、「教員」の方が「KIT-IDEALS」の各項目の達成度の自己評価が高いことが確認できた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較して特に大きな差が見られたのは、「I：知的好奇心を持てている」「A：課題解決のための自律性を持てている」「L：リーダーシップを持てている」「S：自己実現意欲を持てている」などであり、「職員」はこれらの意識が弱いものと思われる。



＜9-1＞卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

- 卒業時の能力に関しては卒・修直前と卒・修生に聞いており、卒・修直前の「満たしている」と「少し満たしている」の合計でソートしたものが下記のグラフとなる。
- 「卒・修直前」「卒・修生」の両者共に「新しい知識・技術に興味を持つ知的好奇心」が最も高く、「情報の収集能力」「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲に対する誠実さ」といったものが続いており、この辺りがKITを卒業した時点で自信を持っている能力と言える。
- 一方、最も自己評価が低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は「卒・修直前」で44.1%、「卒・修生」で25.2%と少なかった。また、「リーダーシップ能力」「実践的・応用的な知識や技術」も評価が低く、これらが弱い点と言える。
- 「卒・修直前」と「卒・修生」の比較をしたところ、両者の間にそれほど大きな差は見られなかったが、「卒・修直前」の自己評価の方が高いものが多く、社会人となった「卒・修生」の自己評価の方がやや控えめで低かった。

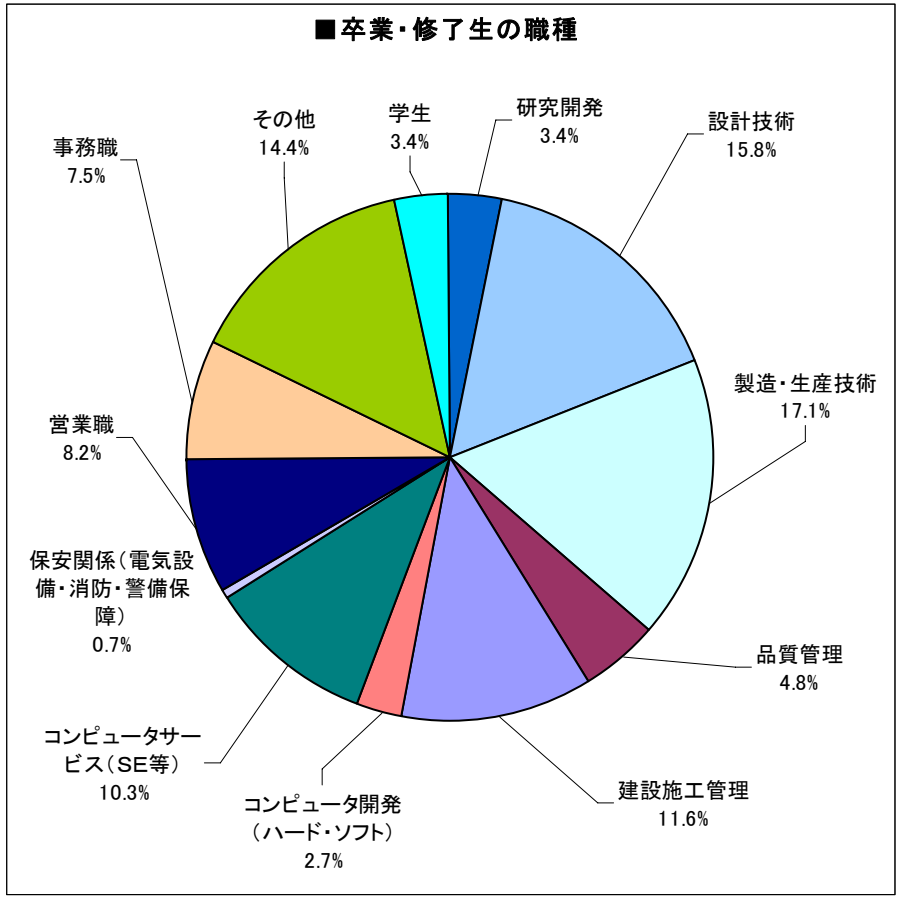


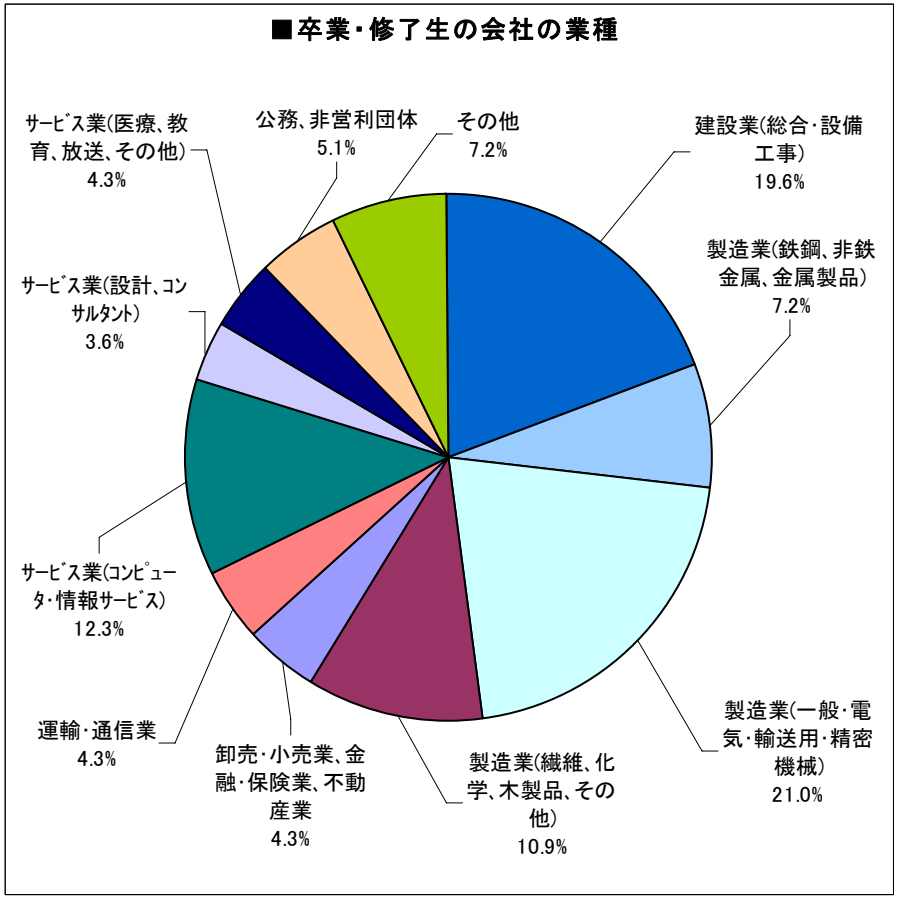
	新しい知識・技術への知的好	情報の収集能力	相手の立場になれる思いや	ﾊﾟｿｺﾝやｲﾝﾀｰﾈｯﾄの活用能力	周囲に対する誠実さ	情報の整理分析能力	技術者として社会に対する責	技術者として重視すべき価値	理論的な思考能力	周囲と共同し共創していけるコ	ねばり強く努力を続ける勤勉	専門分野の基礎的な知識や	基本的な常識	新たなものに挑戦する活力	ひとつの事柄を様々な視	仮説の構築能力	自ら行動を起こせる自律性	ｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝを考えて自己実現	実践的・応用的な知識や技術	意見を分かりやすくまとめ表現	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ能力	英語などの国際的なｺﾐｭﾆｹｰ
卒・修直前	84.6%	83.4%	83.4%	81.7%	81.5%	80.0%	77.9%	77.5%	77.3%	76.8%	76.3%	75.1%	74.6%	74.0%	73.5%	73.3%	73.1%	70.8%	65.6%	65.4%	60.5%	44.1%
卒・修生	89.1%	84.4%	76.9%	87.7%	87.8%	75.0%	73.8%	73.3%	71.6%	78.9%	78.9%	64.4%	71.4%	75.5%	67.6%	67.6%	73.6%	68.0%	52.4%	61.9%	54.4%	25.2%

＜10-1＞卒業・修了生の基本属性

■現在の職種と会社の業種

- 卒業・修了生に対するアンケートでは基本的な属性を聞いているが、その内容は下記の通りであった。
- 職種で最も多かったのは「製造・生産技術」の17.1％であり、「設計技術」（15.8％）、「建設施工管理」（11.6％）、「コンピュータサービス（SE等）」（10.3％）と続いており、ここまでの4職種が10％を超えるものであった。
- 勤務する会社の業種で見ると、「製造業（一般・電気・輸送用・精密機械）」が21.0％で最も多く、次いで「建設業（総合・設備工事）」が19.6％、「サービス業（コンピュータ・情報サービス）」が12.3％、「製造業（繊維、化学、木製品、その他）」が10.9％と続いていた。

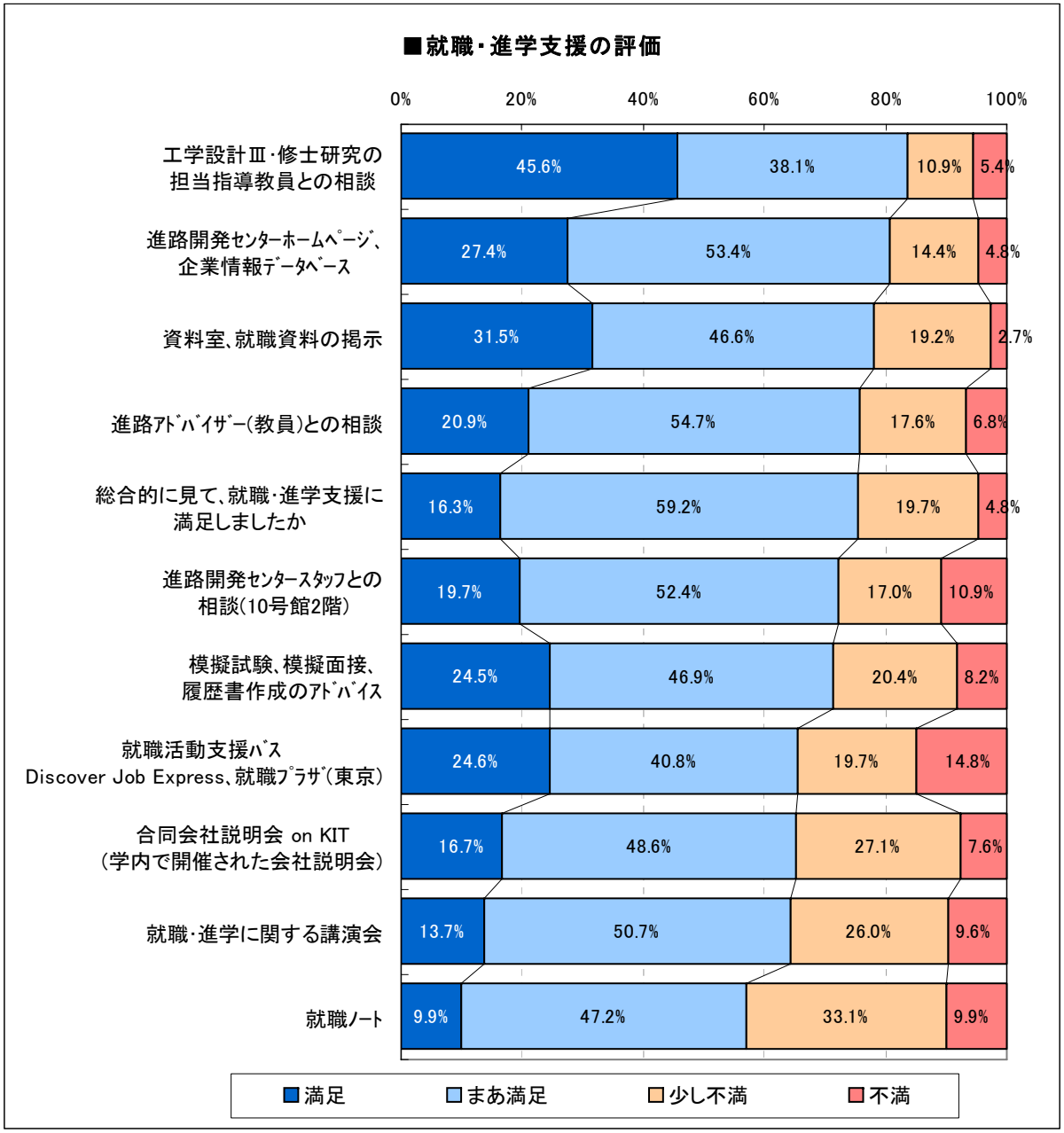




＜10-2＞就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

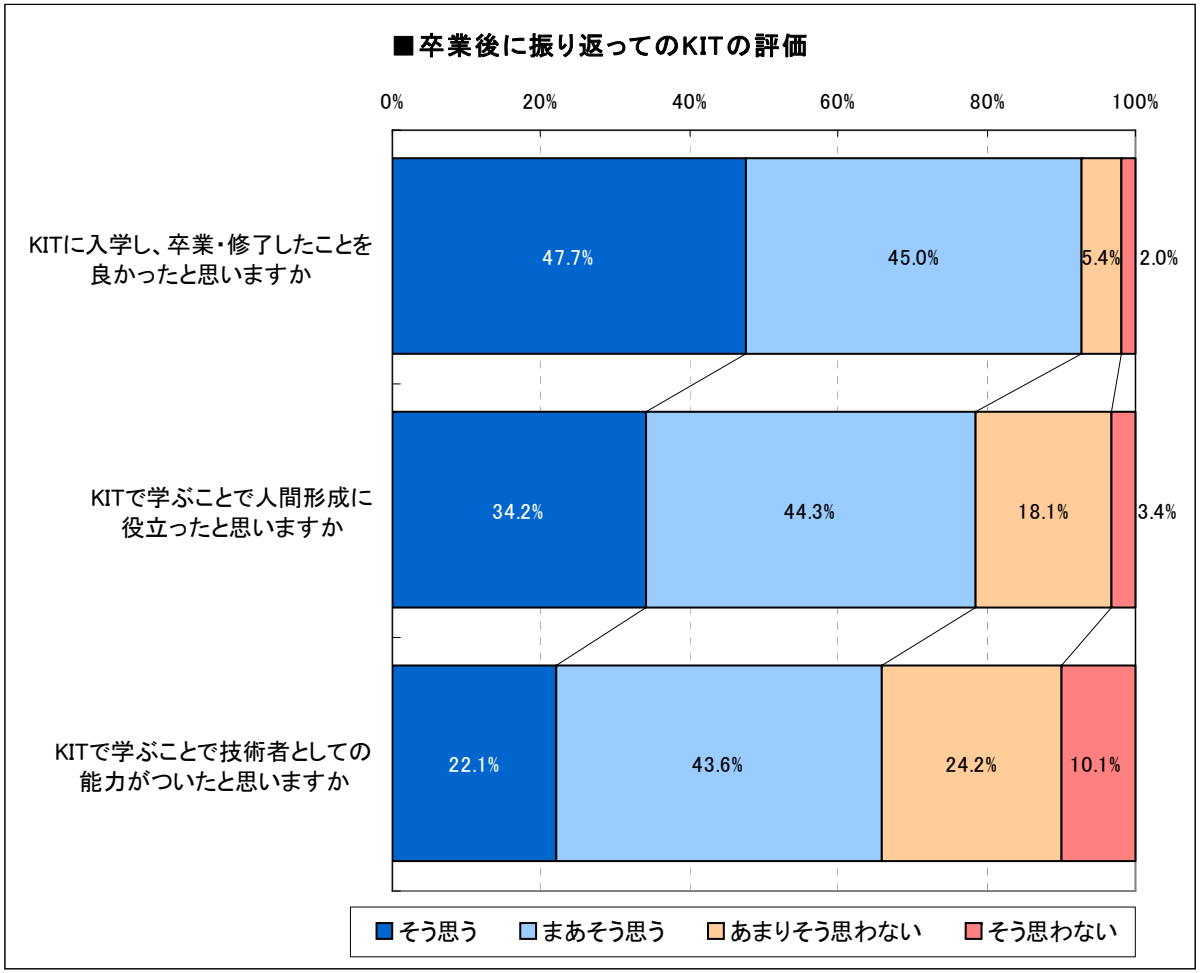
- 卒・修生には就職・進学支援に関する満足度を聞いている。
- 最も満足度が高かったのは「工学設計Ⅲ・修士研究の担当指導教員との相談」であり、「満足」が45.6%と半数近く、「まあ満足」を合わせると83.7%が満足と答えていた。
- 上記に次いで「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」には80.8%、「資料室、就職資料の掲示」には78.1%が満足と答えており、データや資料に関する満足度の高さがうかがえた。
- 「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」という質問には75.5%が満足と答えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」であり、満足という回答は57.1%であり、約4割が不満を持っているようであった。
- 上記の他に満足度が低かったのは「就職・進学に関する講演会」「合同会社説明会 on KIT」「就職活動支援バス」などであり、これらに対しては3割以上が不満という意見であった。
- 「不満」という回答だけを見ると、「就職活動支援バス」が14.8%と最も多く、「進路開発センタースタッフとの相談」も10.9%であり、一部の学生は強い不満を持っていると言える。



＜10-3＞卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

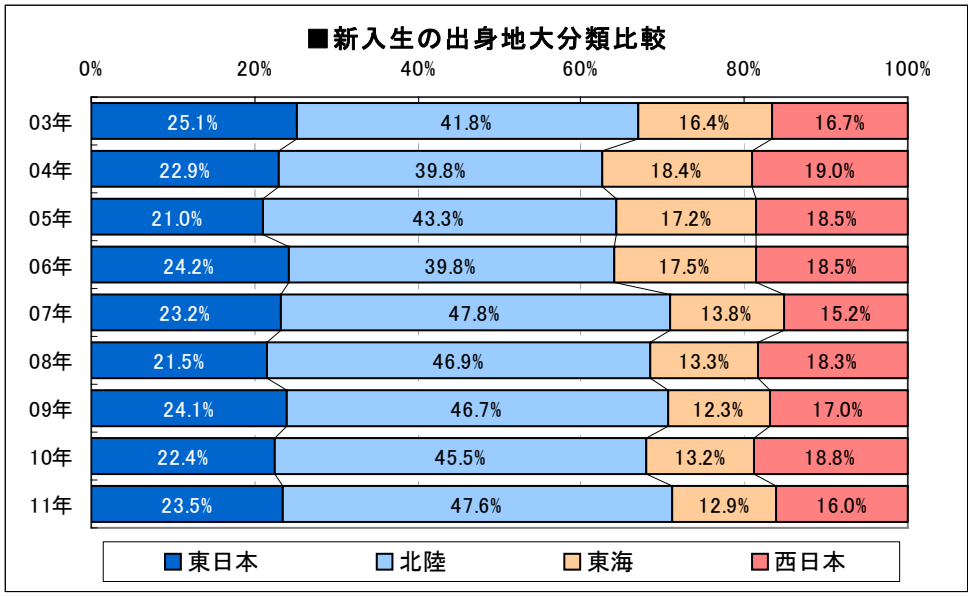
- 卒業後に振り返ってKITをどう評価するか聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」に関しては、47.7%が「そう思う」、45.0%が「まあそう思う」と答えており、合わせると92.7%がKITを卒業・修了したことを良かったと感じており、満足度は非常に高いと言える。
- 「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」に関しては、「そう思う」が34.2%、「まあそう思う」が44.3%であり、合わせると78.5%が役立ったという回答をしていた。
- 「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」では、「そう思う」が22.1%とやや少なく、「まあそう思う」の43.6%と合わせても65.7%であり、他の2項目と比べるとやや満足度は低いと言える。



＜11-1＞新入生のプロフィール

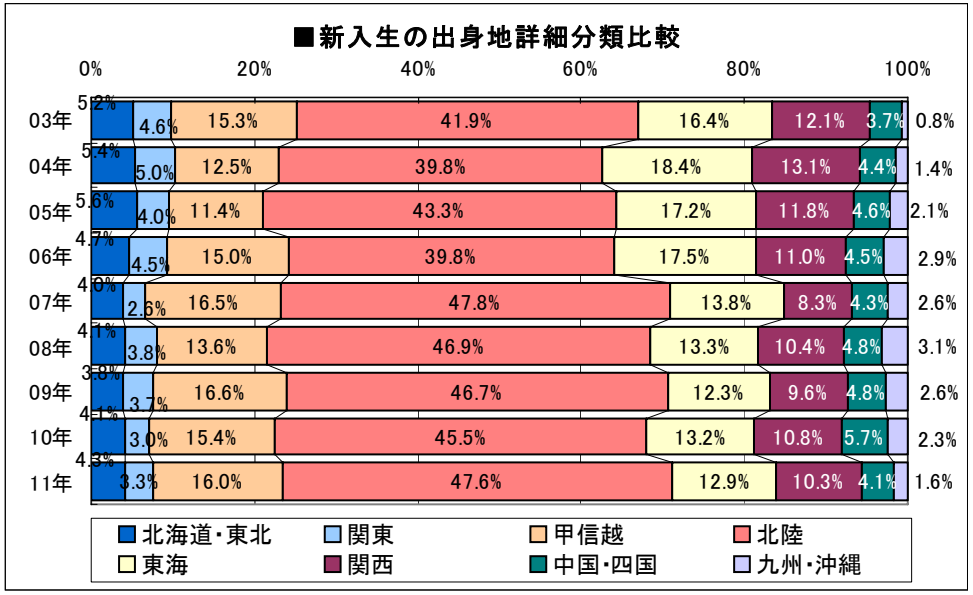
■新入生の学部・学科、出身地

- アンケートに回答した新入生は1,607名であり、「工学部」が41.8%、「情報学部」が29.9%、「環境・建築学部」が17.7%、「バイオ・化学部」が10.3%という割合であった。
- 出身地域では、「北陸」が47.6%で最も多く、次いで「東日本」(23.5%)、「西日本」(16.0%)と続いており、以前と比較してそれほど大きな変化は見られなかった。
- 出身地域を詳細に見ると、「北陸」「甲信越」「東海」「関西」という順になっており、以前と比較しても大きな変化は見られなかった。



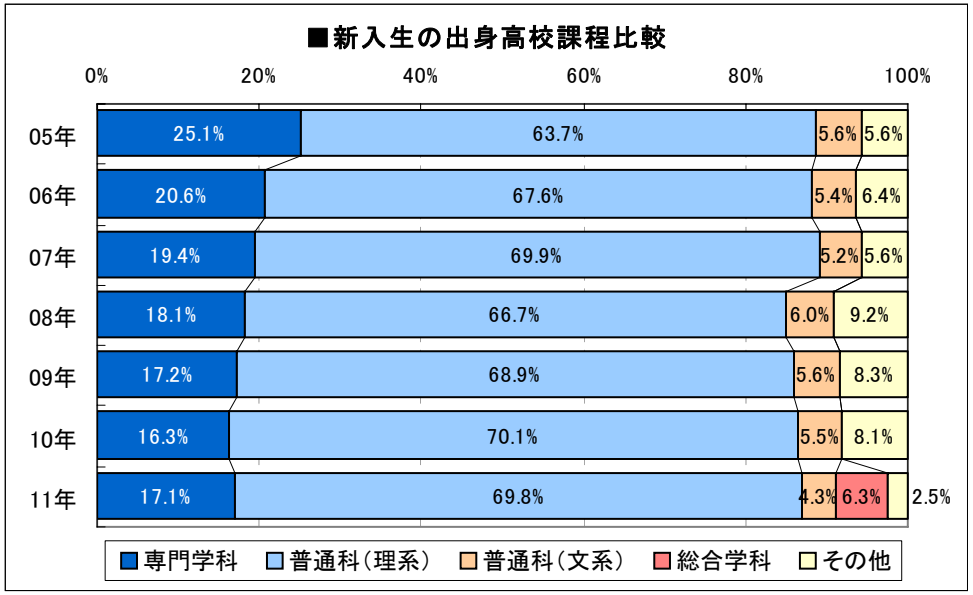
■学部・学科割合

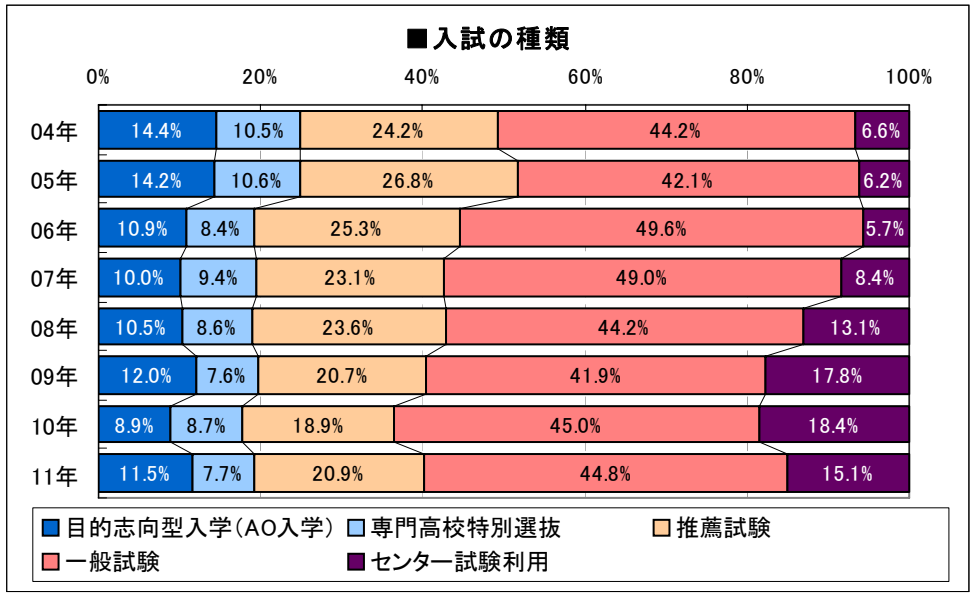
学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	671	41.8%	239	14.9%
	ロボティクス学科			113	7.0%
	航空システム工学科			61	3.8%
	電気電子工学科			185	11.5%
	情報通信工学科			73	4.5%
情報学部	情報工学科	480	29.9%	217	13.5%
	メディア情報学科			139	8.6%
	心理情報学科			64	4.0%
	情報経営学科			60	3.7%
環境・建築学部	環境土木工学科	285	17.7%	54	3.4%
	建築学科			182	11.3%
	建築都市デザイン学科			49	3.0%
バイオ・化学部	応用バイオ学科	166	10.3%	93	5.8%
	応用化学科			73	4.5%
無回答		5	0.3%	5	0.3%
合計		1,607	100.0%	1,607	100.0%

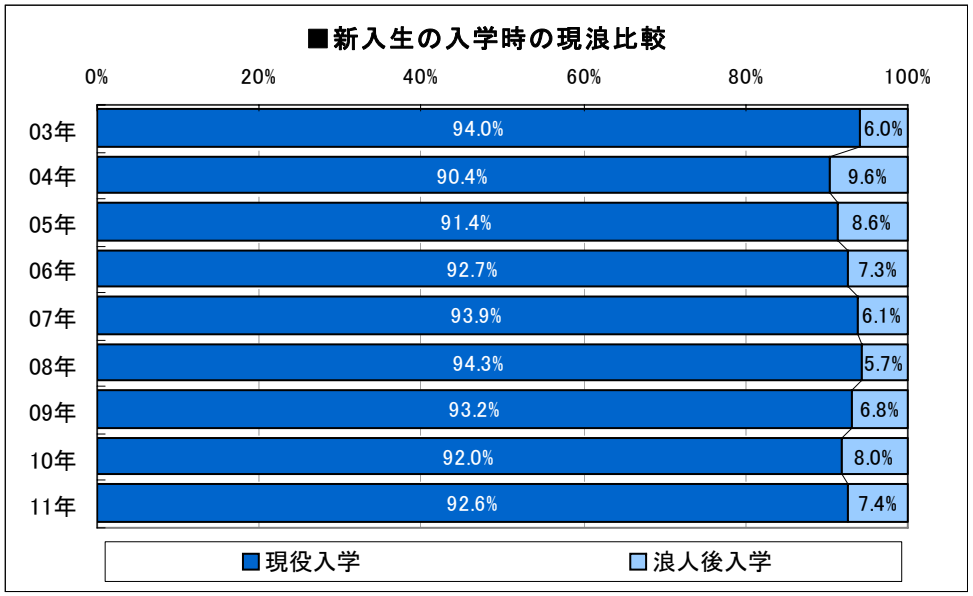


■新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般入試」が44.8%と半数近く、次いで「推薦試験」が20.9%、「センター試験利用」が15.1%と続いていた。
- 04年からの変化を見ると、前回までは「推薦試験」が減少して「センター試験利用」が増加する傾向が続いていたが、今回は「目的志向入学（AO入学」と「推薦試験」が増加し、「センター試験利用」が減少していた。
- 新入生の出身高校の課程では「普通科（理系）」が69.8%と最も多く、「専門学科」が17.1%、「総合学科」が6.3%と続いていた。今回から「総合学科」を選択肢に加えているが、以前との比較ではあまり大きな変化は見られず、「その他」の一部が「総合学科」に変わっていた。
- 入学時の現浪の比較では、「現役入学」が92.6%と大多数を占めていた。ここでも、以前との比較では大きな変化は見られなかった。

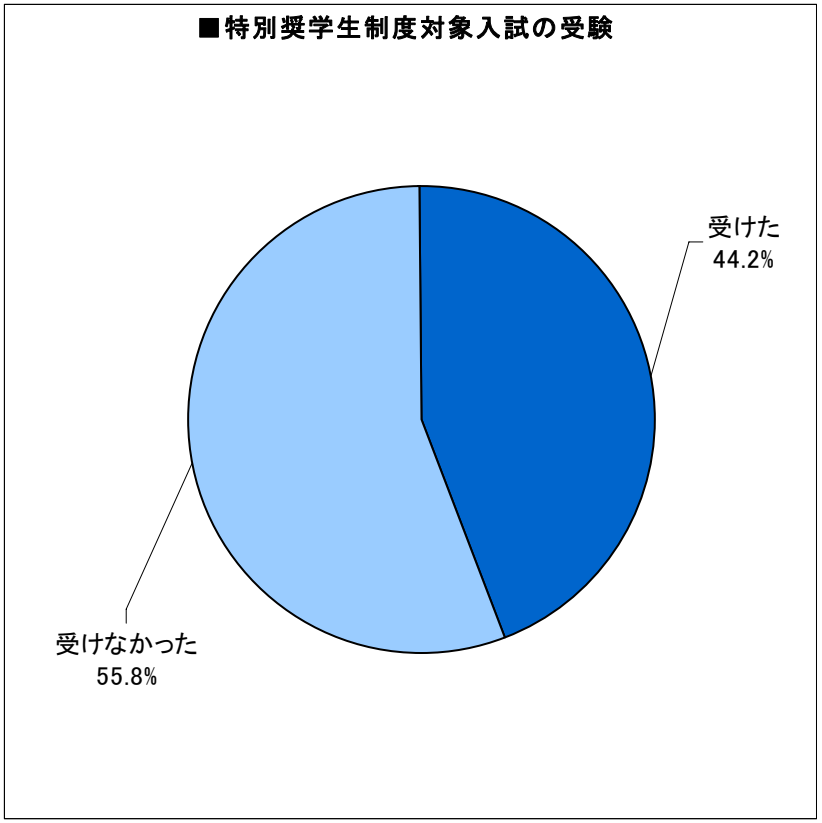






■特別奨学生制度対象入試の受験

- 今回から特別奨学生制度対象入試の受験に関して聞いているが、「受けた」という回答は44.2%と半数弱であった。



■過去4年間の出身地一覧

■08年　出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類		詳細分類	
北海道	15	0.9%	東日本		北海道・東北	
青森県	5	0.3%				
岩手県	2	0.1%				
宮城県	12	0.7%				
秋田県	11	0.7%				
山形県	14	0.8%				
福島県	9	0.5%			68	4.1%
茨城県	2	0.1%			関東	
栃木県	13	0.8%				
群馬県	25	1.5%				
埼玉県	6	0.4%				
千葉県	6	0.4%				
東京都	8	0.5%				
神奈川県	3	0.2%			63	3.8%
新潟県	152	9.2%			甲信越	
山梨県	9	0.5%				
長野県	62	3.8%	354	21.4%	223	13.5%
富山県	213	12.9%	北陸		北陸	
石川県	447	27.1%				
福井県	112	6.8%	772	46.7%	772	46.7%
岐阜県	55	3.3%	東海		東海	
静岡県	61	3.7%				
愛知県	50	3.0%				
三重県	52	3.1%	218	13.2%	218	13.2%
滋賀県	36	2.2%	西日本		関西	
京都府	33	2.0%				
大阪府	35	2.1%				
兵庫県	45	2.7%				
奈良県	7	0.4%				
和歌山県	15	0.9%			171	10.4%
鳥取県	9	0.5%			中国・四国	
島根県	8	0.5%				
岡山県	17	1.0%				
広島県	14	0.8%				
山口県	10	0.6%				
徳島県	9	0.5%				
香川県	4	0.2%				
愛媛県	8	0.5%				
高知県	0	0.0%			79	4.8%
福岡県	24	1.5%			九州・沖縄	
佐賀県	1	0.1%				
長崎県	1	0.1%				
熊本県	2	0.1%				
大分県	3	0.2%				
宮崎県	8	0.5%				
鹿児島	4	0.2%				
沖縄県	8	0.5%	301	18.2%	51	3.1%
不明	7	0.4%	7	0.4%	7	0.4%
合計	1652	100.0%	1652	100.0%	1652	100.0%

■09年　出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類		詳細分類	
北海道	13	0.8%	東日本		北海道・東北	
青森県	4	0.3%				
岩手県	1	0.1%				
宮城県	3	0.2%				
秋田県	16	1.0%				
山形県	18	1.1%				
福島県	4	0.3%			59	3.8%
茨城県	12	0.8%			関東	
栃木県	7	0.4%				
群馬県	20	1.3%				
埼玉県	2	0.1%				
千葉県	7	0.4%				
東京都	5	0.3%				
神奈川県	4	0.3%			57	3.6%
新潟県	131	8.4%			甲信越	
山梨県	14	0.9%				
長野県	113	7.2%	374	23.9%	258	16.5%
富山県	208	13.3%	北陸		北陸	
石川県	398	25.4%				
福井県	119	7.6%	725	46.2%	725	46.2%
岐阜県	50	3.2%	東海		東海	
静岡県	62	4.0%				
愛知県	57	3.6%				
三重県	22	1.4%	191	12.2%	191	12.2%
滋賀県	43	2.7%	西日本		関西	
京都府	33	2.1%				
大阪府	18	1.1%				
兵庫県	43	2.7%				
奈良県	4	0.3%				
和歌山県	8	0.5%			149	9.5%
鳥取県	8	0.5%			中国・四国	
島根県	8	0.5%				
岡山県	20	1.3%				
広島県	13	0.8%				
山口県	8	0.5%				
徳島県	9	0.6%				
香川県	4	0.3%				
愛媛県	2	0.1%				
高知県	2	0.1%			74	4.7%
福岡県	16	1.0%			九州・沖縄	
佐賀県	2	0.1%				
長崎県	3	0.2%				
熊本県	3	0.2%				
大分県	2	0.1%				
宮崎県	5	0.3%				
鹿児島	2	0.1%				
沖縄県	8	0.5%	264	16.8%	41	2.6%
不明	14	0.9%	14	0.9%	14	0.9%
合計	1568	100.0%	1568	100.0%	1568	100.0%

■10年　出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類		詳細分類	
北海道	20	1.2%	東日本		北海道・東北	
青森県	1	0.1%				
岩手県	2	0.1%				
宮城県	13	0.8%				
秋田県	16	0.9%				
山形県	13	0.8%				
福島県	5	0.3%			70	4.1%
茨城県	8	0.5%			関東	
栃木県	8	0.5%				
群馬県	15	0.9%				
埼玉県	5	0.3%				
千葉県	6	0.3%				
東京都	3	0.2%				
神奈川県	6	0.3%			51	3.0%
新潟県	161	9.3%			甲信越	
山梨県	1	0.1%				
長野県	102	5.9%	385	22.3%	264	15.3%
富山県	225	13.1%	北陸		北陸	
石川県	433	25.1%				
福井県	123	7.1%	781	45.3%	781	45.3%
岐阜県	64	3.7%	東海		東海	
静岡県	81	4.7%				
愛知県	53	3.1%				
三重県	29	1.7%	227	13.2%	227	13.2%
滋賀県	45	2.6%	西日本		関西	
京都府	24	1.4%				
大阪府	31	1.8%				
兵庫県	67	3.9%				
奈良県	5	0.3%				
和歌山県	13	0.8%			185	10.7%
鳥取県	10	0.6%			中国・四国	
島根県	7	0.4%				
岡山県	23	1.3%				
広島県	18	1.0%				
山口県	8	0.5%				
徳島県	14	0.8%				
香川県	7	0.4%				
愛媛県	7	0.4%				
高知県	3	0.2%			97	5.6%
福岡県	20	1.2%			九州・沖縄	
佐賀県	2	0.1%				
長崎県	3	0.2%				
熊本県	1	0.1%				
大分県	3	0.2%				
宮崎県	2	0.1%				
鹿児島	4	0.2%				
沖縄県	5	0.3%	322	18.7%	40	2.3%
不明	8	0.5%	8	0.5%	8	0.5%
合計	1723	100.0%	1723	100.0%	1723	100.0%

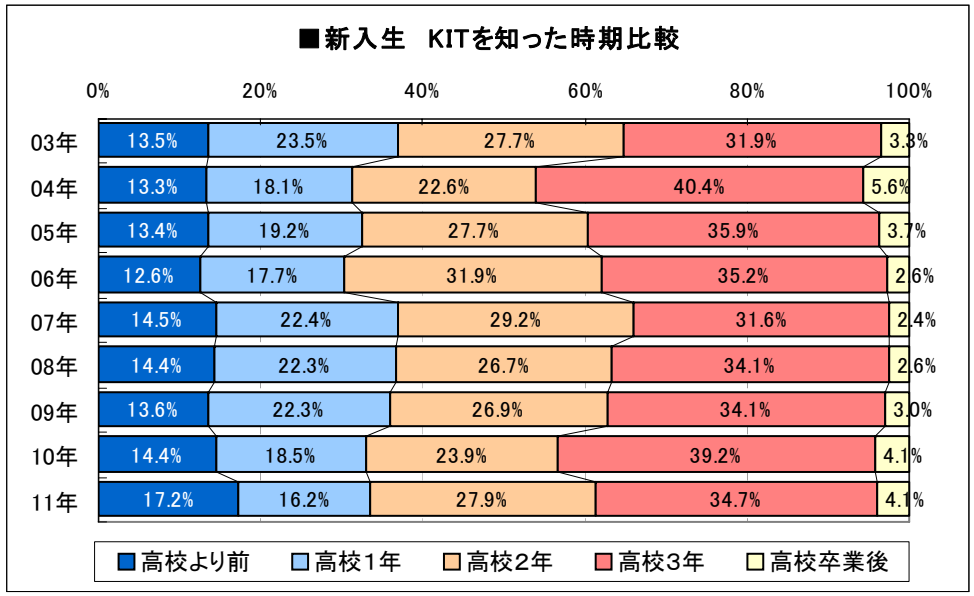
■11年　出身地一覧

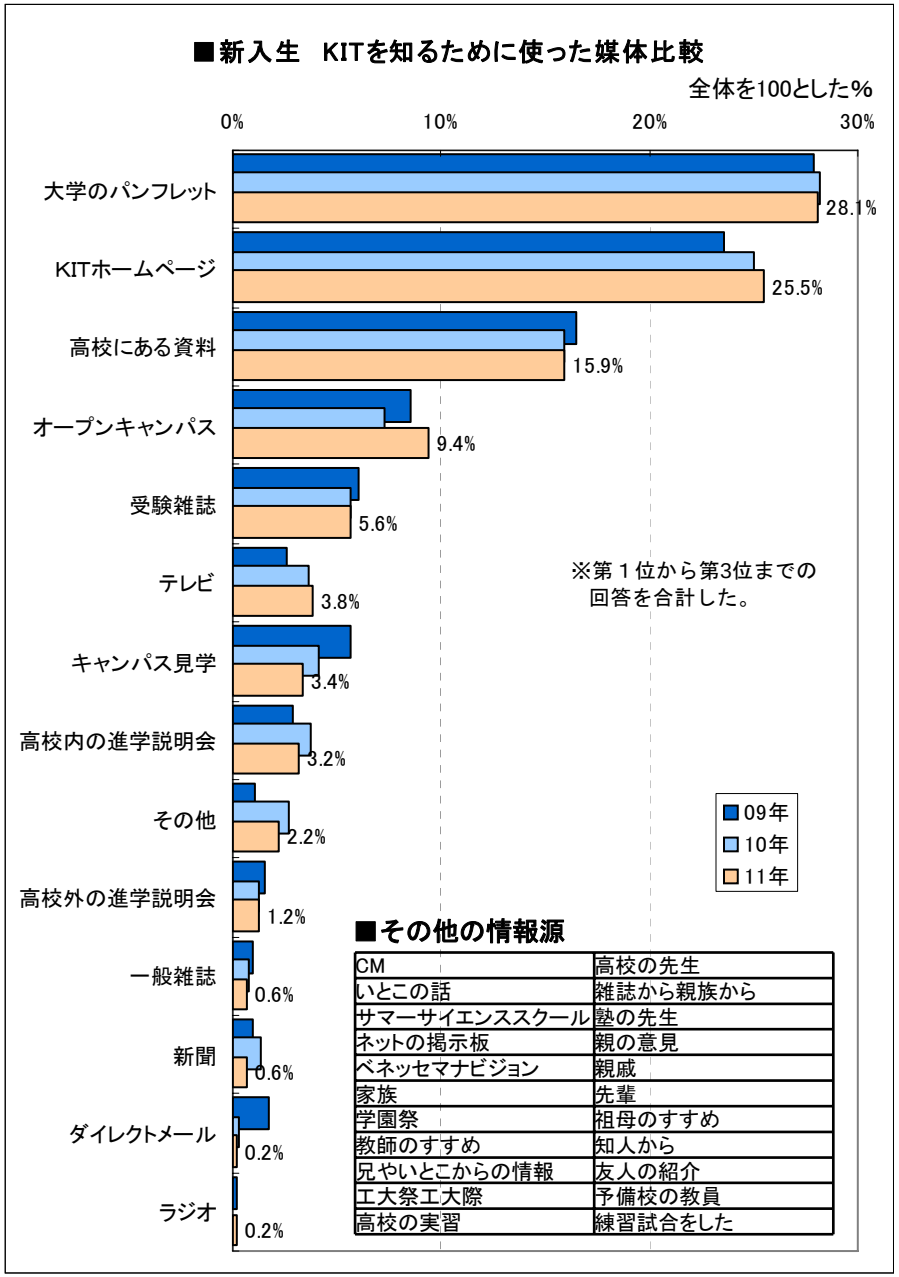
都道府県	人数	割合	大分類		詳細分類	
北海道	19	1.2%	東日本		北海道・東北	
青森県	4	0.2%				
岩手県	2	0.1%				
宮城県	5	0.3%				
秋田県	10	0.6%				
山形県	18	1.1%				
福島県	10	0.6%			68	4.2%
茨城県	10	0.6%			関東	
栃木県	4	0.2%				
群馬県	19	1.2%				
埼玉県	3	0.2%				
千葉県	4	0.2%				
東京都	6	0.4%				
神奈川県	6	0.4%			52	3.2%
新潟県	152	9.5%			甲信越	
山梨県	9	0.6%				
長野県	94	5.8%	375	23.3%	255	15.9%
富山県	229	14.3%	北陸		北陸	
石川県	408	25.4%				
福井県	122	7.6%	759	47.2%	759	47.2%
岐阜県	60	3.7%	東海		東海	
静岡県	59	3.7%				
愛知県	49	3.0%				
三重県	38	2.4%	206	12.8%	206	12.8%
滋賀県	55	3.4%	西日本		関西	
京都府	19	1.2%				
大阪府	25	1.6%				
兵庫県	55	3.4%				
奈良県	6	0.4%				
和歌山県	5	0.3%			165	10.3%
鳥取県	4	0.2%			中国・四国	
島根県	9	0.6%				
岡山県	12	0.7%				
広島県	14	0.9%				
山口県	3	0.2%				
徳島県	9	0.6%				
香川県	8	0.5%				
愛媛県	5	0.3%				
高知県	1	0.1%			65	4.0%
福岡県	11	0.7%			九州・沖縄	
佐賀県	0	0.0%				
長崎県	11	0.7%				
熊本県	1	0.1%				
大分県	0	0.0%				
宮崎県	1	0.1%				
鹿児島	0	0.0%				
沖縄県	2	0.1%	256	15.9%	26	1.6%
不明	11	0.7%	11	0.7%	11	0.7%
合計	1607	100.0%	1607	100.0%	1607	100.0%

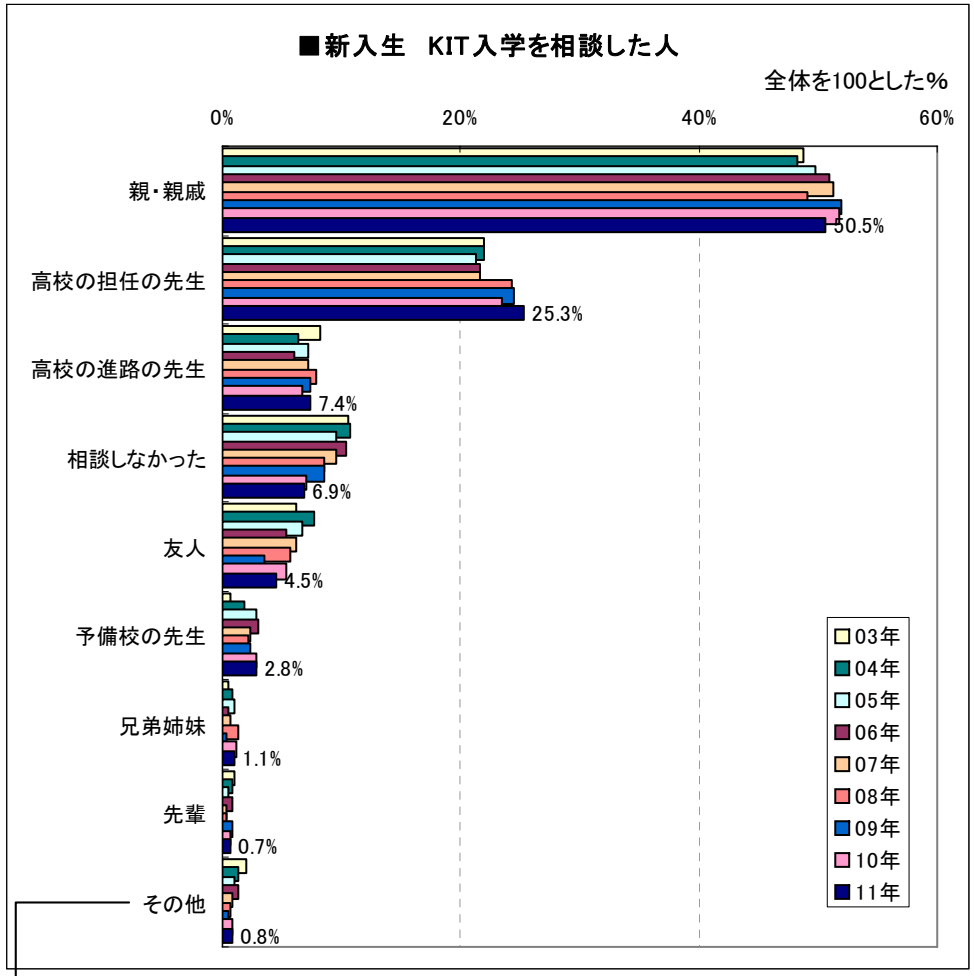
＜11-3＞KITの認知経路などに関して

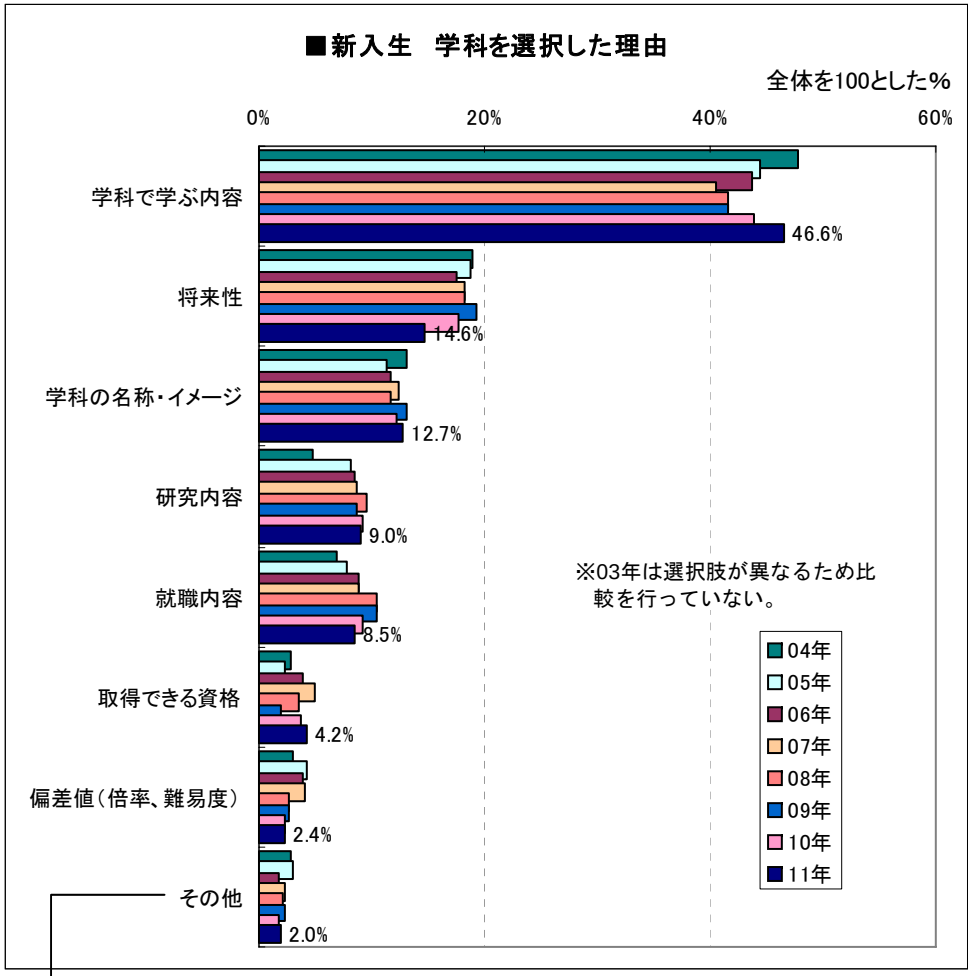
■KITを知った時期と利用した媒体

- KITを知った時期としては「高校3年」が34.7%で最も多く、次いで「高校2年」(27.9%)と続いていた。そして、「高校より前」が「高校1年」より多く、17.2%を占めていた。以前との比較ではそれほど大きな変化は見られなかったが、「高校より前」と「高校2年」がわずかに増加して、「高校1年」と「高校3年」が減少していた。
- KITを知るために使った媒体では「大学のパンフレット」が最も多く28.1%であり、次いで「KITホームページ」が25.5%、「高校にある資料」が15.9%となっていた。以前と比較すると「KITホームページ」は3年連続で増加していた。
- KIT入学を相談した人で最も多かったのは「親・親戚」の50.5%であり、「高校の担任の先生」(25.3%)、「高校の進路の先生」(7.4%)と続いていた。そして、以前との比較では大きな変化は見られなかったが、「高校の担任の先生」がやや増加していた。
- 学科を選択した理由としては「学科で学ぶ内容」が46.6%と最も多く、「将来性」(14.6%)、「学科の名称・イメージ」(12.7%)と続いており、前回と比較すると「学科で学ぶ内容」が増加して「将来性」が減少していた。









■その他の相談相手

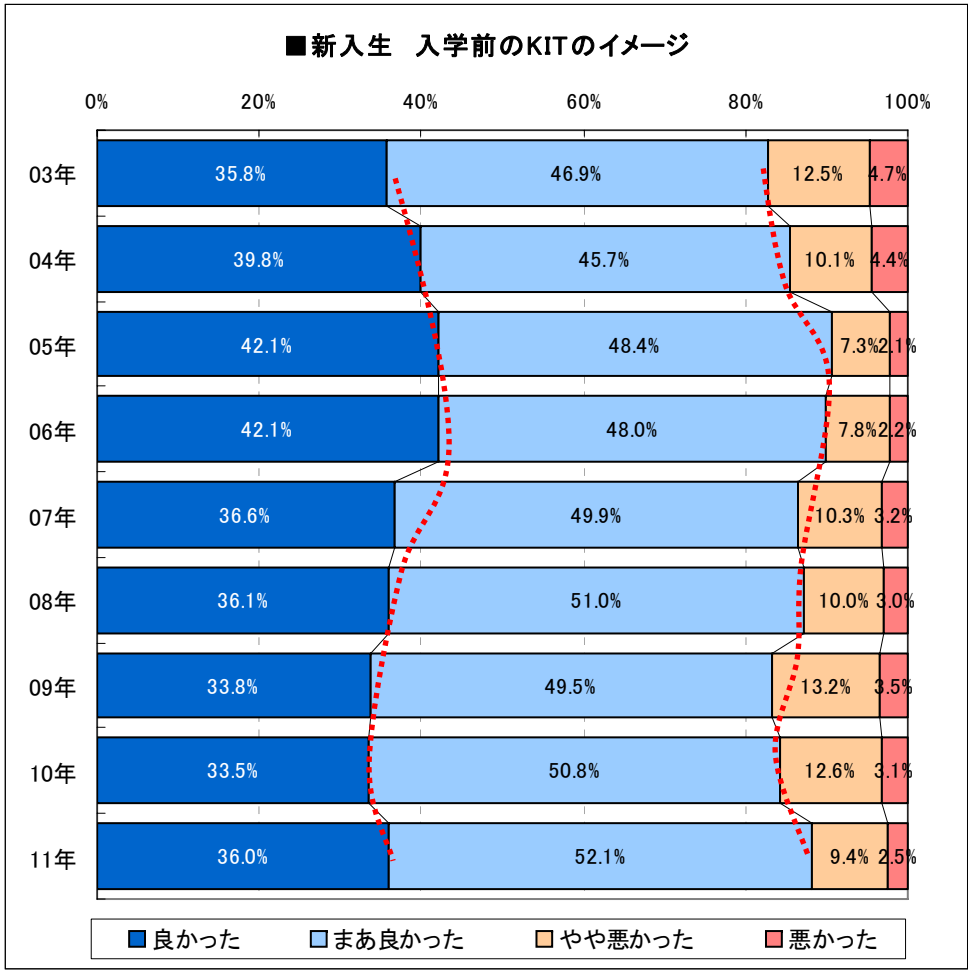
FAX学習の担任の先生	この大学のOBの先生
系列の先生	塾の先生
個人塾の先生	部活の先生
高校の先生（専門系）	高校の専門学科の先生
高校の数学の教科担任の先生	

■その他の学科選択理由

プログラミングがしたい	工学部の人と相談して
マンガの影響	高校が建築だった
やりたいことがこれしかないから	高校と同じ科だから
よく分からなかったから一番上の学科にした	高校の続きを学びたかったから
ロボットをつくりたかったから	作る事が好きだから
化学が好きなので	自分が今それをやりたいと思ったから。
何か残せるものが作りたかったから	親のあとをつぐため
機械工学科を受けるにあたっての保険	祖父の影響
建築家が夢だったから	夢

■入学前のKITのイメージ

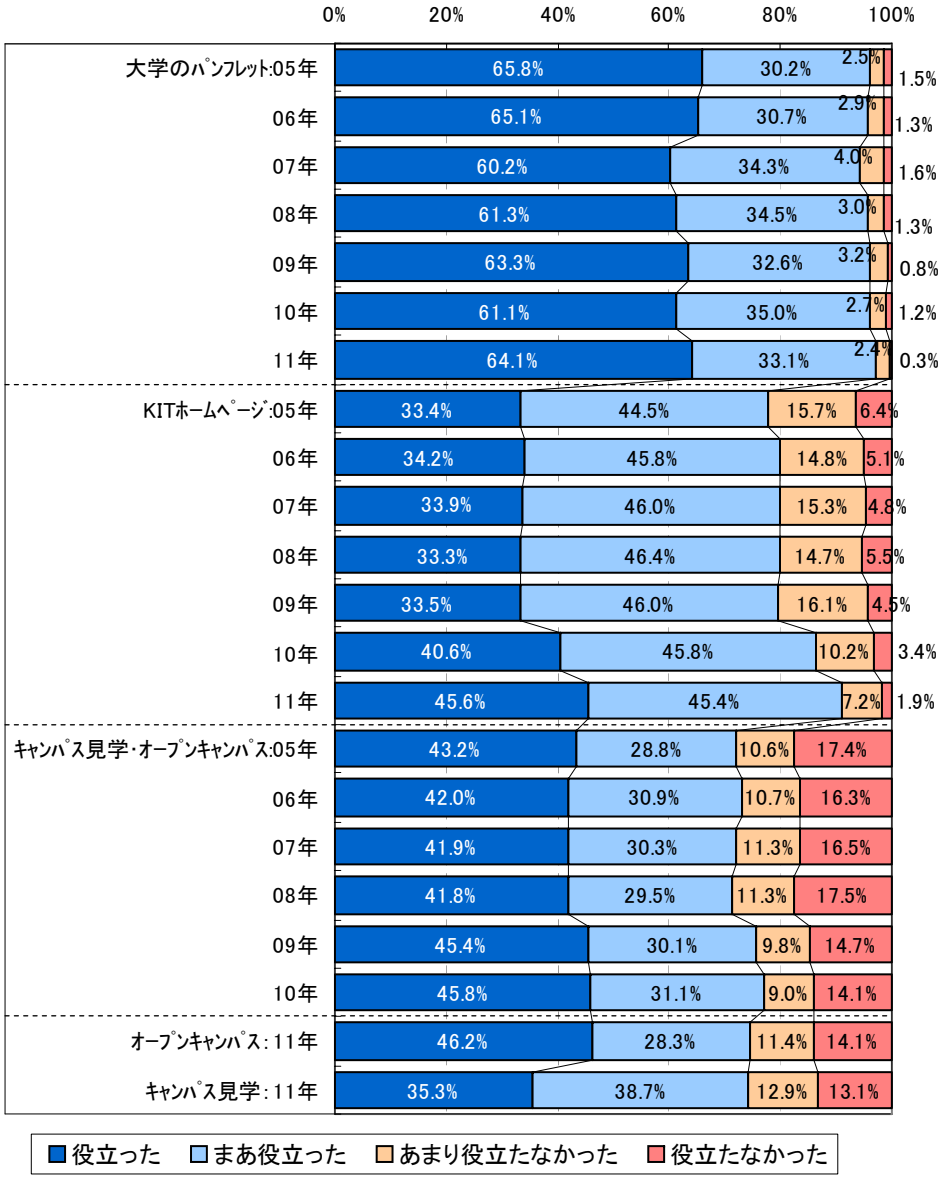
- 入学前のKITのイメージでは、「良かった」は36.0%、「まあ良かった」は52.1%であり、合わせると88.1%が良いイメージを持っていた。
- 前回と比較すると、「良かった」と「まあ良かった」の両方共に増加し、合計で見ると前回よりも3.8ポイント増加しており、09年から継続的に良くなっていた。



■代表的な媒体の評価

- 大学を知るための媒体の評価を聞いた。10年までは「キャンパス見学」と「オープンキャンパス」を一緒に聞いていたが、今回から分けて聞いている。
- 「大学のパンフレット」の評価では、「役立った」が64.1%と半数を超えており、「まあ役立った」の33.1%を合わせると97.2%が役立ったと答えており、非常に評価が高かったが、前回との差はほとんどなかった。
- 「KITホームページ」は「役立った」が45.6%、「まあ役立った」が45.4%で、合わせると91.0%であり、前回よりも4.6ポイント増加しており、継続的に評価が上がっていた。
- 「オープンキャンパス」は「役立った」が46.2%、「まあ役立った」が28.3%で、合わせると74.5%が役立ったと評価していた。前回までは「キャンパス見学・オープンキャンパス」を合わせて聞いていたが、今回の「オープンキャンパス」とほぼ同じ評価であった。
- 「キャンパス見学」では「役立った」が35.3%、「まあ役立った」が38.7%で、合わせると74.0%であり、「オープンキャンパス」よりも「役立った」が少なかった。

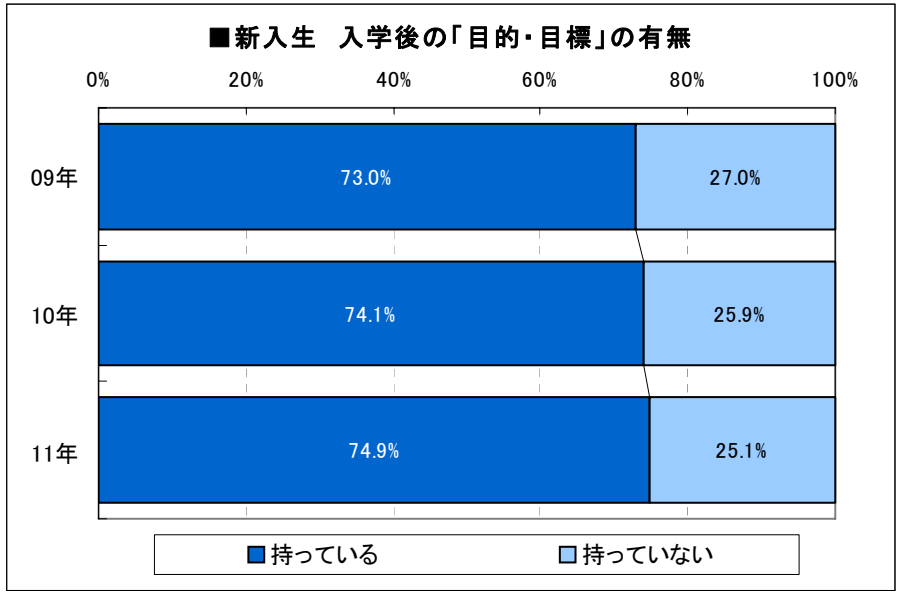
■新入生　代表的な媒体の評価

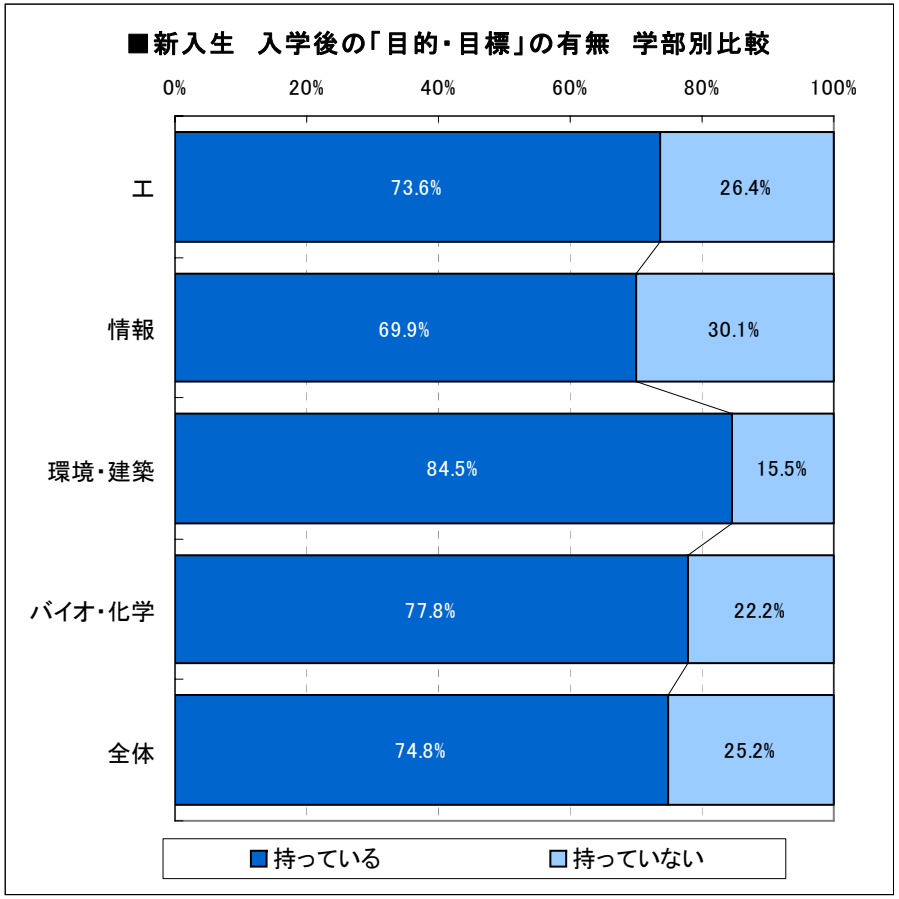


＜11-4＞入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という質問では、74.9%が「持っている」と答えていた。以前と比較するとそれほど大きな変化はないものの、「持っている」がわずかに増加していた。
- 学部別に見ると「環境・建築学部」は「持っている」の割合が高く、次いで、「バイオ・化学部」「工学部」「情報学部」の順となっており、「環境・建築学部」と「情報学部」の差は14.6ポイントであった。

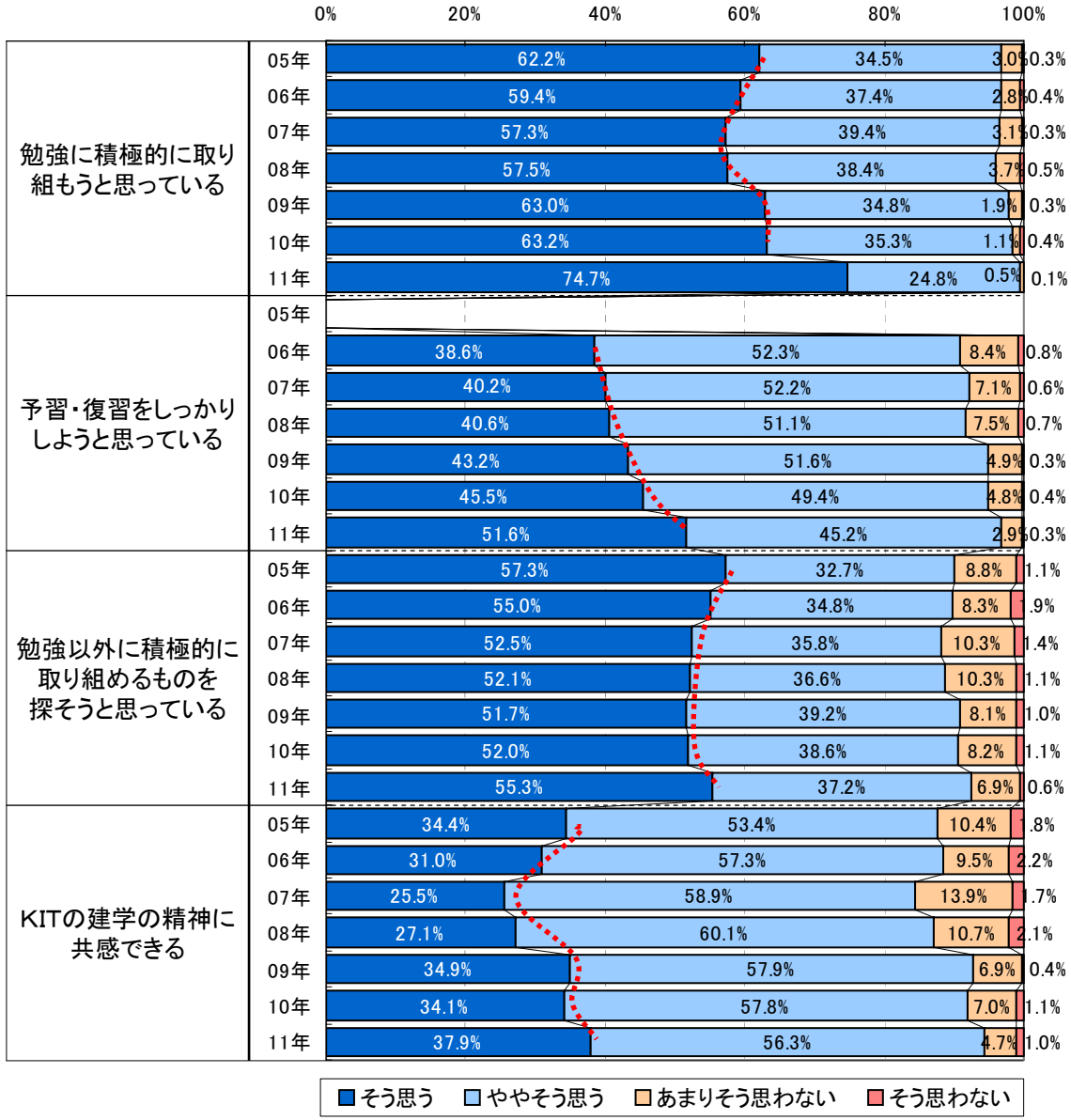




■KITへの期待、心構え

- 「KITへの期待、心構え」に関して、勉強などへの取り組み姿勢や建学の精神など、4つの質問をした。
- 「勉強に積極的に取り組もうと思っている」では、「そう思う」が74.7%と非常に高く、「ややそう思う」(24.8%)を合わせると99.5%と、ほぼ全員が勉強に積極的に取り組もうとしていることが分かった。以前と比べても「そう思う」は一気に増加しており、積極性が増していると言える。
- 「予習・復習をしっかりしようと思っている」に関しても「そう思う」が51.6%、「ややそう思う」が45.2%であり、96.8%が積極的な姿勢を示しており、以前との比較では「そう思う」が徐々に増加しており、積極性が増していると言える。
- 「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」は前回より少し積極性が増し、「そう思う」と「ややそう思う」の合計は92.5%であった。
- 「KITの建学の精神に共感できる」は「そう思う」が37.9%、「ややそう思う」が56.3%であり、合わせて94.2%が共感できると答えており、以前との比較ではわずかに共感できるという回答が増加していた。
- 4つの指標を見ると、いずれも9割以上が積極的な回答となっており、積極性も年々増していることが分かった。

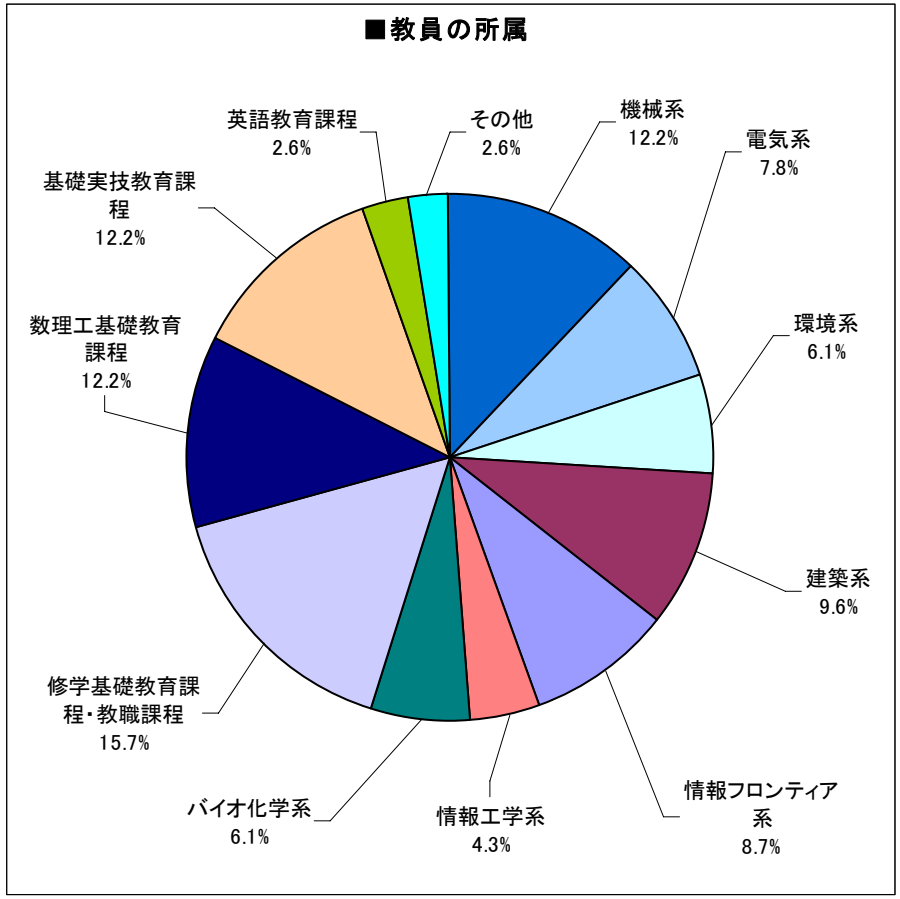
■新入生　KITへの期待、心構え

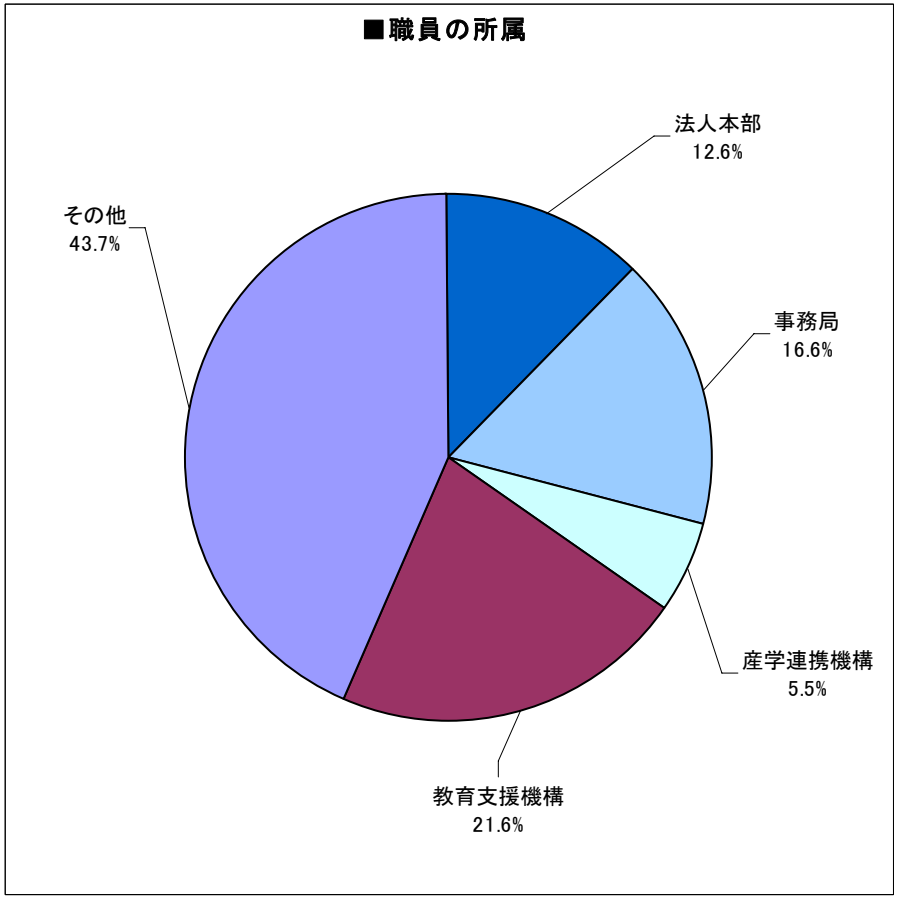


＜12-1＞教職員の基本属性

■教職員の基本属性

- 回答した教員の所属を見ると「修学基礎教育課程・教職課程」が最も多い15.7%であり、次いで「機械系」「数理工基礎教育課程」「基礎実技教育課程」の3つが12.2%、「建築系」が9.6%と続いていた。
- 職員の所属では「その他」が43.7%で最も多く、「教育支援機構」が21.6%、「事務局」が16.6%、「法人本部」が12.6%という割合であった。

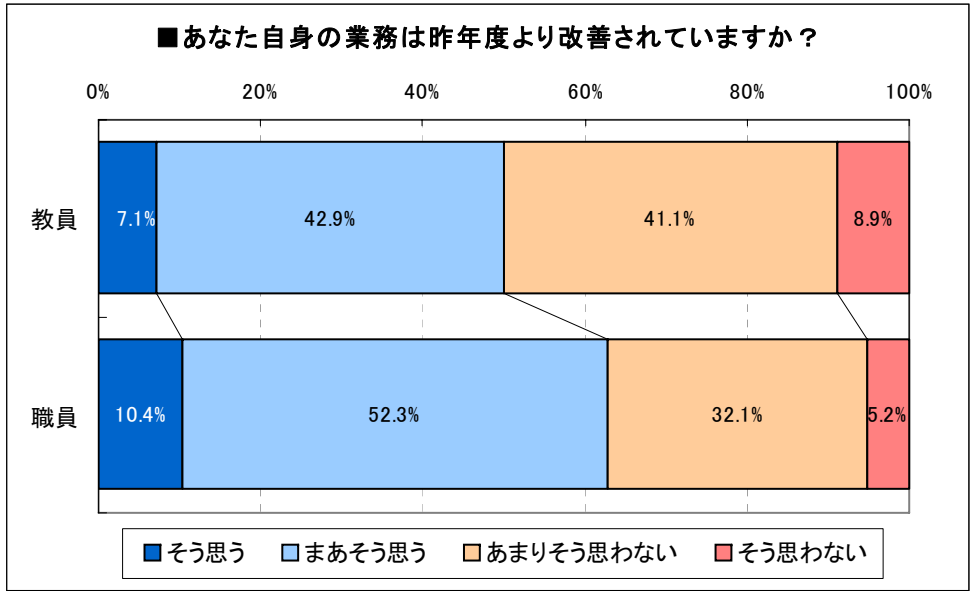




＜12-2＞業務の状況に関して

■自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」という質問では、「教員」は「そう思う」が7.1%、「まあそう思う」が42.9%であり、合わせると50.0%が改善されていると感じていた。
- 「職員」では「そう思う」が10.4%、「まあそう思う」が52.3%で、合わせると62.7%であり、「教員」よりも12.7ポイント多く、改善が進んでいると感じている割合が高いことが分かった。
- 肯定的な意見を前回と比較すると、「教員」はほとんど差がなかったが、「職員」では2.7ポイント増加しており、前回の調査の時よりも改善が進んだと感じている職員が多かった。

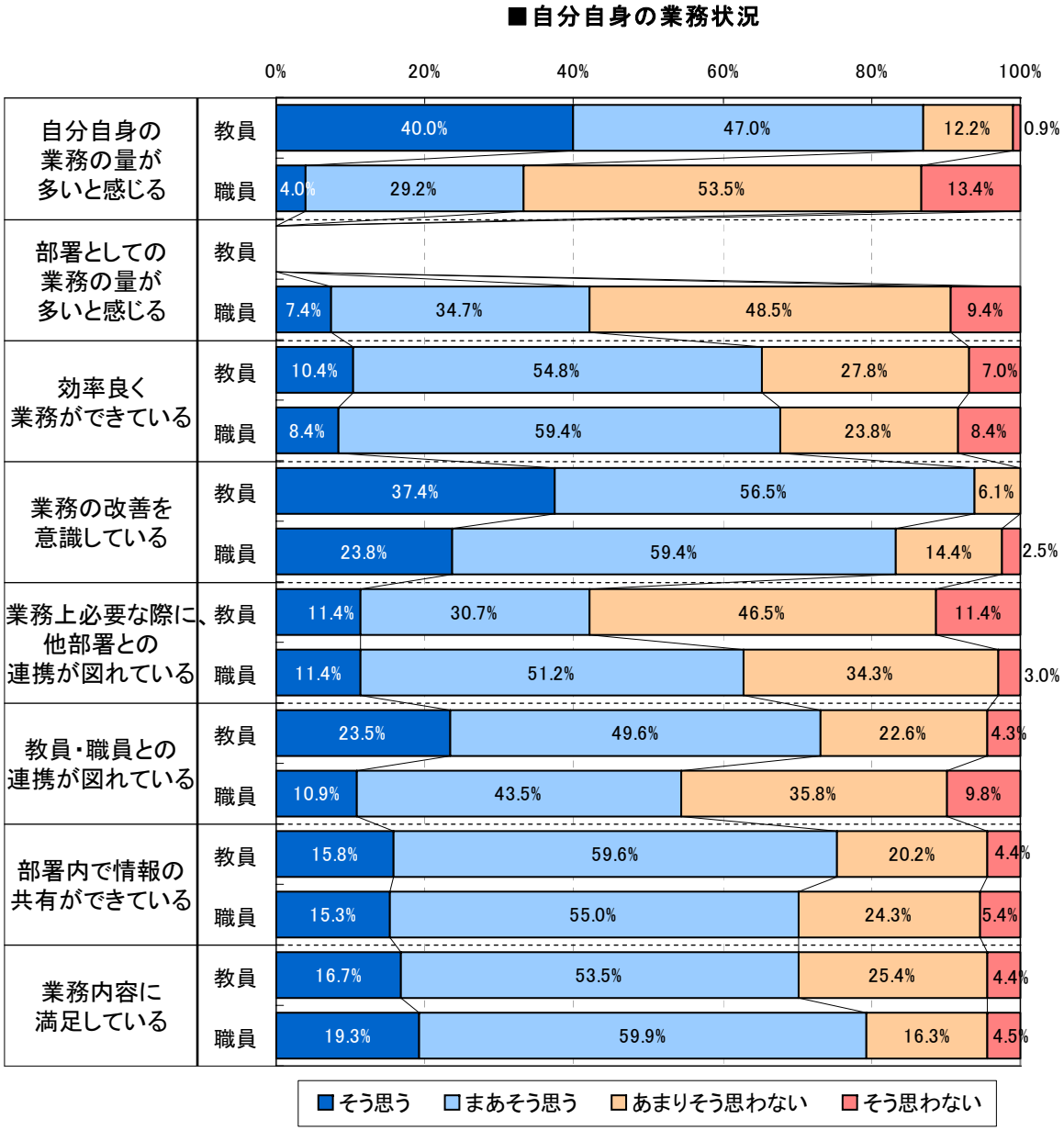


■前回との比較（肯定的な意見の合計）

	10年	11年（今回）
教員	50.5%	50.0%
職員	60.0%	62.7%

■自分自身の業務状況

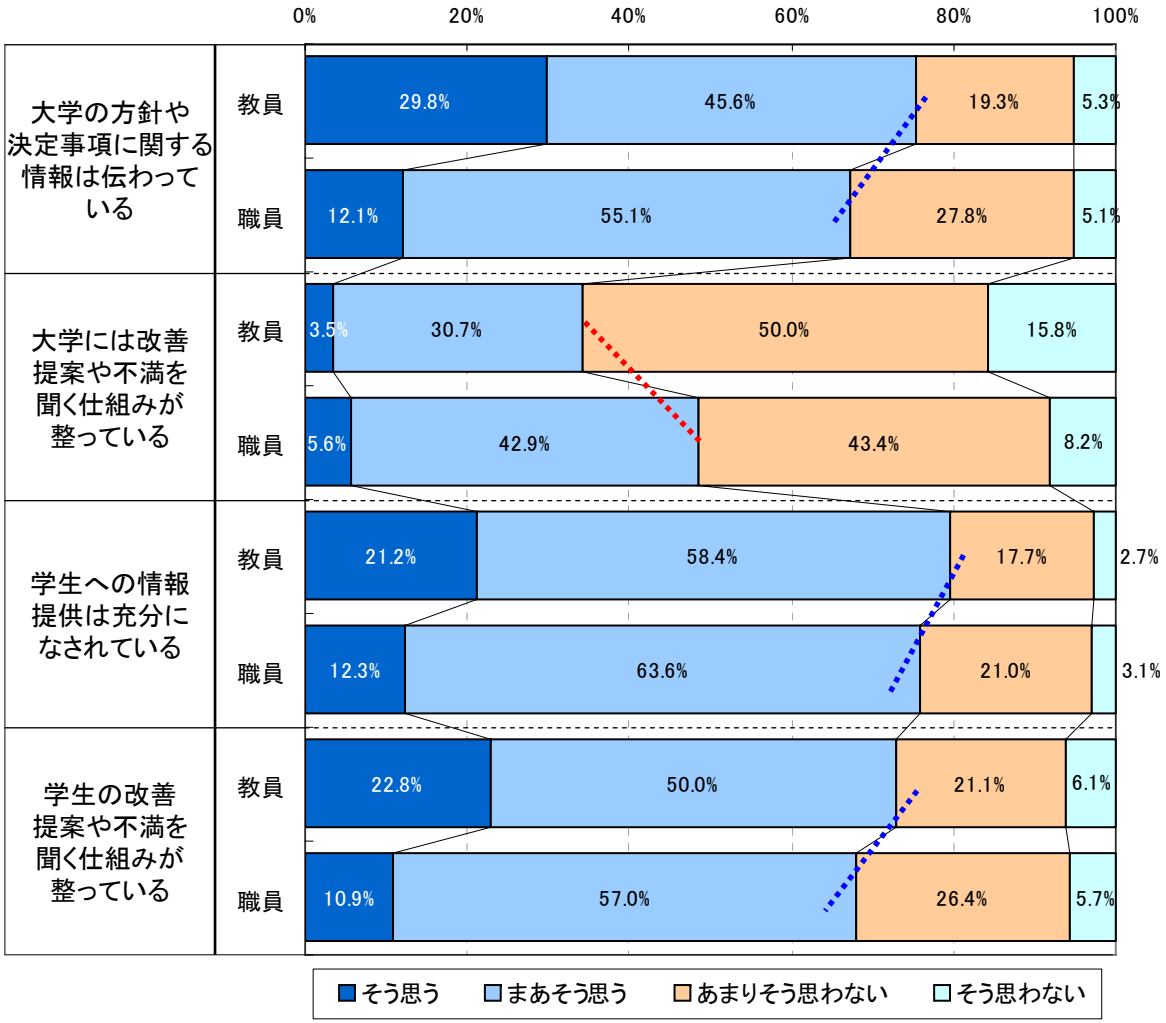
- 自分自身の業務の評価を8つの指標で聞いた。
- 全体的な評価である「業務内容に満足している」という問いに対する肯定的な意見は、「教員」で70.2%、「職員」で79.2%であり、「職員」の方がやや満足度は高いものの、2～3割は不満を持っていることが分かった。
- 「教員」の回答に注目すると、「自分自身の業務の量が多いと感じる」に対する肯定的な意見が非常に多い点が特徴的であった。また、「業務の改善を意識している」「職員との連携が図れている」が「職員」より高かった。
- 「職員」の方は「自分自身の業務の量が多いと感じる」に対する肯定的な意見が非常に少なく、「業務上必要な際に、他部署との連携が図れている」が多い点が特徴的であった。



■大学全体の業務改善の進捗状況

- 大学が改善にどのように取り組んでいるか、教職員の感じ方を見ると、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」では「教員」は75.4%、「職員」は67.2%が肯定的な意見であり、「職員」の情報不足が感じられた。
- 「学生への情報提供は充分になされている」「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」の2項目に関しても「教員」の方が肯定的な意見が多く、「職員」はやや課題を感じているように思われる。
- 「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」は教職員共に肯定的な意見が少なく、両者共に課題があると感じているようであったが、特に「教員」で肯定的な意見が少なく、約7割がこの点に課題を感じているようであった。

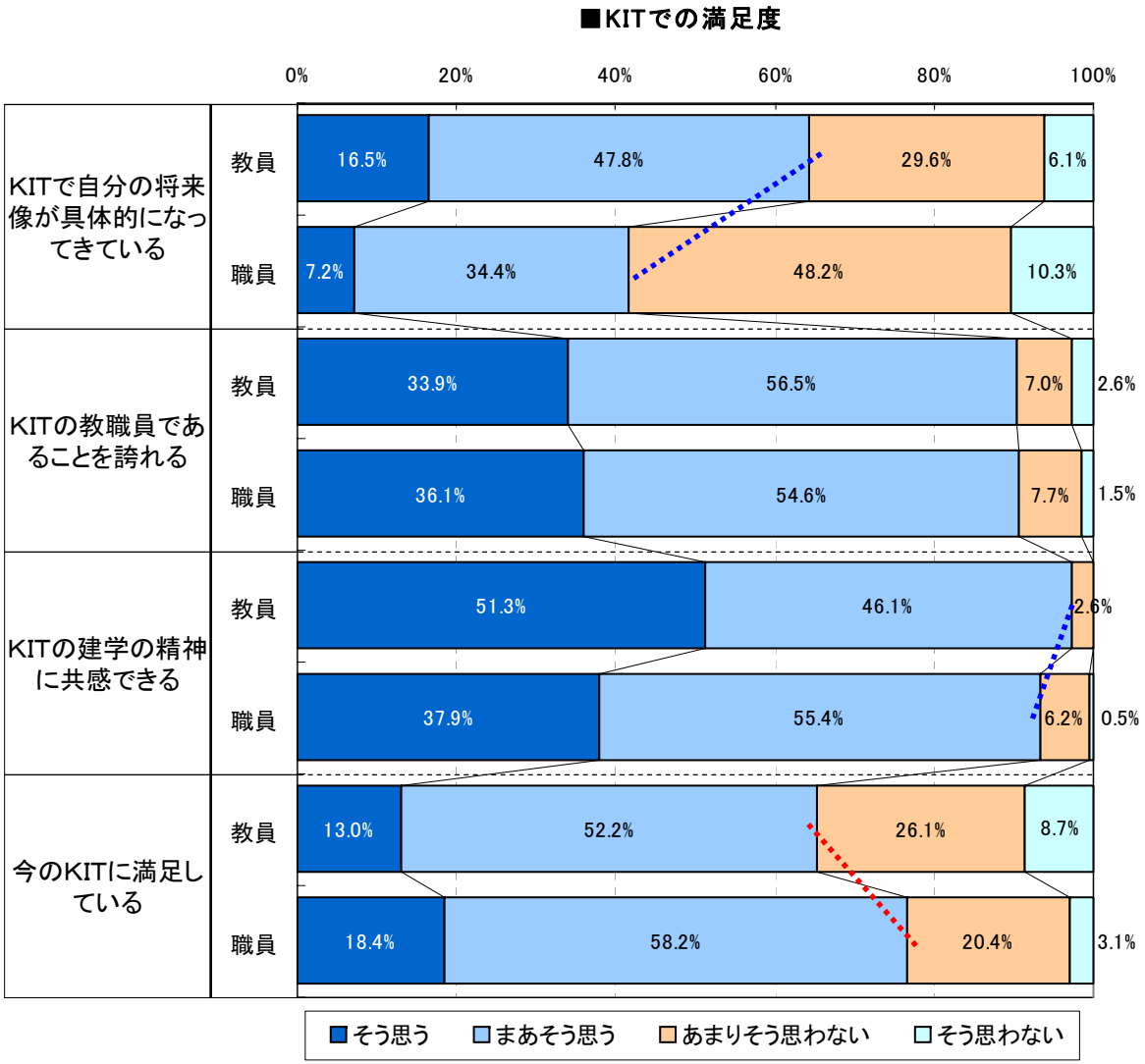
■大学の改善への取組状況



＜12-3＞KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度に関しては4つの項目を聞いている。
- 総合的な評価である「今のKITに満足している」では、「職員」で肯定的な意見が76.6%であり、「教員」の65.2%を11.4ポイント上回っていた。
- 「KITの教職員であることを誇れる」は「教員」と「職員」の間に差はなく、いずれも9割が肯定的な意見であり、教職員のほとんどが誇りを持っていることが分かった。
- 「KITで自分の将来像が具体的になってきている」では肯定的な意見が「教員」で64.3%、「職員」で41.6%と、差が22.7ポイントあり、教員の方が将来像がよく見えている様子がうかがえた。
- 「KITの建学の精神に共感できる」に関しても差は少ないものの「教員」の方が肯定的な意見が多く、「教員」で97.4%、「職員」は93.3%であった。特に「そう思う」だけを見ると差は大きく、教員は建学の精神により強く共感できているようであった。



継続的な改善活動のために！
在学生・卒業生・教職員
2011 KIT総合アンケート調査結果［報告書］

■発行日　平成23年11月21日
■発行者　学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析　有限会社 アイ・ポイント
■編集　金沢工業大学企画部ＣＳ室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています